

津市中央浄化センター（管理棟上屋）耐震補強工事			
仕様書			
I 工事概要			
1. 工事場所	津市高洲町 地内		
2. 敷地面積	2250.51m ²		
3. 工事種目	<p>名称 : 中央浄化センター 管理棟 構造 : 鉄筋コンクリート造 規模 : 地下1階 地上3階</p> <p>建築基準法建築面積 : 2250.51m² 建築基準法延床面積 : 6020.02m² 各階施工床面積 : 地下1階 床面積 2059.18m² 1階 床面積 2108.06m² 2階 床面積 1600.25m² 3階 床面積 252.51m²</p>		
4. 工事内容	建築躯体（1~3F）の耐震補強工事 一式		
5. 工事範囲	※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。		
・「3. 工事種目」のうち各工事項目における工事範囲は下記表のとおりとする。ただし、その他の工事種目はすべて、今回工事範囲とする。			
工事種目		前回工事	今回工事
工事項目			
2 仮設工事	○		
3 防水改修工事	○		
4 外壁改修工事 コンクリート打ち放し仕上げ外壁	○		
外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁			
外壁改修工事 タル強り仕上げ外壁	○		
外壁改修工事 塗り仕上げ外壁			
5 建具改修工事	○		
6 内装改修工事	○		
7 塗装改修工事	○		
8 耐震改修範囲以外の躯体改修工事			
耐震改修工事	○		
9 環境配慮改修工事			
II 建築改修工事仕様			
1. 共通仕様	<p>図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官房常務部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年版）」（以下、「改修標仕」という。）により、また改修標仕に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官房常務部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年版）」（以下、「標仕」といいう。）による。</p> <p>2. 特記仕様</p> <p>(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 (2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と◎印の付いた場合は、共に適用する。</p> <p>(3) 特記事項に記載の[]内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (4) 特記事項に記載の[]内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (5) ◎印は「国等による環境物品等の調達等に関する法律（グリーン購入法）」の特定調達品目を示す。</p>		
3. 材料の品質等	<p>本工事に使用する材料は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、JIS又はJASマーク表示のない材料及びその製造者は、次の(1)～(6)の項目を満たすものとする。</p> <p>(1) 質量及び性能に関する試験データが整備されていること (2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること (3) 安全的な供給が可能であること (4) 法令等で定める認可、認可、認定、免許等を取得していること (5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること (6) 版式、保守等の営業体制が整えられていること</p> <p>なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外観機関（社）公共建築改修協会等）が発行する「建築材料、設備機材等品質性能評価事業」の評価書等の写しを、監督職員に提出して承認を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。</p> <p>また、参考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。</p> <p>改修標仕及び標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。</p>		
4. 施工数量調査	<p>調査範囲及び調査方法 ※図示</p> <p>既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ※図示</p>		
5. 項 目	特 記 事 項		
① 通用基準等	○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成28年版） ○工事写真の撮り方（改訂第3版）建築編（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修） ○建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成24年版）		
② 工事実績情報の登録	※適用する [1. 1. 4]		
③ 品質計画等	○建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 ※風速 V= (32) m/s (平12建告第1454号第2) ※地表面粗度区分 I・II・III・IV ・積雪区分 平12建告第1455号 別表 ()		
④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 要 不要		
⑤ 施工条件	下記以外は現場説明書による。 ○工事用車両の駐車場所 ※図示 ○資機材場所 ※図示 ・建設発土置場 ※図示 ○場内（監督職員と協議） ※図示		
6. 発生材の処理等	<p>○発注者に引渡しを要するもの ○金属類 () [1. 3. 8] ・特別管理産業廃棄物 (・砕石等 P C B 含有物) [1. 3. 8] ・現場において再利用を図るもの () [1. 3. 8] ○再資源化を図るもの ○コンクリート () [1. 3. 8]</p>		
7. 環境への配慮	<p>化学物質を排放する建築材料等 [1. 4. 1] 本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、次の(1)から(5)を満たすものとする。 (1) 合板 木質フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリカ樹脂板、仕上塗材及び壁纸は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (2) 保湿材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (3) 接着剤はタル酸ジ- n -ブチル及びタル酸ジ- 2 -エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、及びエチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、及びエチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (5) (1)、(3)及び(4)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。</p> <p>また、設計図書に定める「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。</p> <p>ホルムアルデヒド放散量 該当する材料</p> <p>規制対象外</p> <ul style="list-style-type: none"> ① J I S 及び J A S の F ☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記記載のある J A S 規格品 <ul style="list-style-type: none"> a. 接着剤等不使用 b. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 		
8. 特別な材料の工法	<p>本工事に使用する材料は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、JIS又はJASマーク表示のない材料及びその製造者は、次の(1)～(6)の項目を満たすものとする。</p> <p>(1) 質量及び性能に関する試験データが整備されていること (2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること (3) 安全的な供給が可能であること (4) 法令等で定める認可、認可、認定、免許等を取得していること (5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること (6) 版式、保守等の営業体制が整えられていること</p> <p>なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外観機関（社）公共建築改修協会等）が発行する「建築材料、設備機材等品質性能評価事業」の評価書等の写しを、監督職員に提出して承認を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。</p> <p>また、参考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。</p> <p>改修標仕及び標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。</p>		
9. 施工数量調査	<p>調査範囲及び調査方法 ※図示</p> <p>既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ※図示</p>		
10. 項 目	特 記 事 項		
① 通用基準等	○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成28年版） ○工事写真の撮り方（改訂第3版）建築編（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修） ○建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成24年版）		
② 工事実績情報の登録	※適用する [1. 1. 4]		
③ 品質計画等	○建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 ※風速 V= (32) m/s (平12建告第1454号第2) ※地表面粗度区分 I・II・III・IV ・積雪区分 平12建告第1455号 別表 ()		
④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 要 不要		
⑤ 施工条件	下記以外は現場説明書による。 ○工事用車両の駐車場所 ※図示 ○資機材場所 ※図示 ・建設発土置場 ※図示 ○場内（監督職員と協議） ※図示		
11. 項 目	特 記 事 項		
① 通用基準等	○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成28年版） ○工事写真の撮り方（改訂第3版）建築編（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修） ○建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成24年版）		
② 工事実績情報の登録	※適用する [1. 1. 4]		
③ 品質計画等	○建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 ※風速 V= (32) m/s (平12建告第1454号第2) ※地表面粗度区分 I・II・III・IV ・積雪区分 平12建告第1455号 別表 ()		
④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 要 不要		
⑤ 施工条件	下記以外は現場説明書による。 ○工事用車両の駐車場所 ※図示 ○資機材場所 ※図示 ・建設発土置場 ※図示 ○場内（監督職員と協議） ※図示		
12. 項 目	特 記 事 項		
① 通用基準等	○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成28年版） ○工事写真の撮り方（改訂第3版）建築編（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修） ○建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成24年版）		
② 工事実績情報の登録	※適用する [1. 1. 4]		
③ 品質計画等	○建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 ※風速 V= (32) m/s (平12建告第1454号第2) ※地表面粗度区分 I・II・III・IV ・積雪区分 平12建告第1455号 別表 ()		
④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 要 不要		
⑤ 施工条件	下記以外は現場説明書による。 ○工事用車両の駐車場所 ※図示 ○資機材場所 ※図示 ・建設発土置場 ※図示 ○場内（監督職員と協議） ※図示		
13. 項 目	特 記 事 項		
① 通用基準等	○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成28年版） ○工事写真の撮り方（改訂第3版）建築編（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修） ○建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成24年版）		
② 工事実績情報の登録	※適用する [1. 1. 4]		
③ 品質計画等	○建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 ※風速 V= (32) m/s (平12建告第1454号第2) ※地表面粗度区分 I・II・III・IV ・積雪区分 平12建告第1455号 別表 ()		
④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 要 不要		
⑤ 施工条件	下記以外は現場説明書による。 ○工事用車両の駐車場所 ※図示 ○資機材場所 ※図示 ・建設発土置場 ※図示 ○場内（監督職員と協議） ※図示		
14. 項 目	特 記 事 項		
① 通用基準等	○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成28年版） ○工事写真の撮り方（改訂第3版）建築編（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修） ○建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成24年版）		
② 工事実績情報の登録	※適用する [1. 1. 4]		
③ 品質計画等	○建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 ※風速 V= (32) m/s (平12建告第1454号第2) ※地表面粗度区分 I・II・III・IV ・積雪区分 平12建告第1455号 別表 ()		
④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 要 不要		
⑤ 施工条件	下記以外は現場説明書による。 ○工事用車両の駐車場所 ※図示 ○資機材場所 ※図示 ・建設発土置場 ※図示 ○場内（監督職員と協議） ※図示		
15. 項 目	特 記 事 項		
① 通用基準等	○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成28年版） ○工事写真の撮り方（改訂第3版）建築編（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修） ○建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成24年版）		
② 工事実績情報の登録	※適用する [1. 1. 4]		
③ 品質計画等	○建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 ※風速 V= (32) m/s (平12建告第1454号第2) ※地表面粗度区分 I・II・III・IV ・積雪区分 平12建告第1455号 別表 ()		
④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 要 不要		
⑤ 施工条件	下記以外は現場説明書による。 ○工事用車両の駐車場所 ※図示 ○資機材場所 ※図示 ・建設発土置場 ※図示 ○場内（監督職員と協議） ※図示		
16. 項 目	特 記 事 項		
① 通用基準等	○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成28年版） ○工事写真の撮り方（改訂第3版）建築編（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修） ○建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成24年版）		
② 工事実績情報の登録	※適用する [1. 1. 4]		
③ 品質計画等	○建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 ※風速 V= (32) m/s (平12建告第1454号第2) ※地表面粗度区分 I・II・III・IV ・積雪区分 平12建告第1455号 別表 ()		
④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 要 不要		
⑤ 施工条件	下記以外は現場説明書による。 ○工事用車両の駐車場所 ※図示 ○資機材場所 ※図示 ・建設発土置場 ※図示 ○場内（監督職員と協議） ※図示		
17. 項 目	特 記 事 項		
① 通用基準等	○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成28年版） ○工事写真の撮り方（改訂第3版）建築編（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修） ○建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成24年版）		
② 工事実績情報の登録	※適用する [1. 1. 4]		
③ 品質計画等	○建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 ※風速 V= (32) m/s (平12建告第1454号第2) ※地表面粗度区分 I・II・III・IV ・積雪区分 平12建告第1455号 別表 ()		
④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 要 不要		
⑤ 施工条件	下記以外は現場説明書による。 ○工事用車両の駐車場所 ※図示 ○資機材場所 ※図示 ・建設発土置場 ※図示 ○場内（監督職員と協議） ※図示		
18. 項 目	特 記 事 項		
① 通用基準等	○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成28年版） ○工事写真の撮り方（改訂第3版）建築編（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修） ○建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官房常務部建築課監修 平成24年版）		
② 工事実績情報の登録	※適用する [1. 1. 4]</		

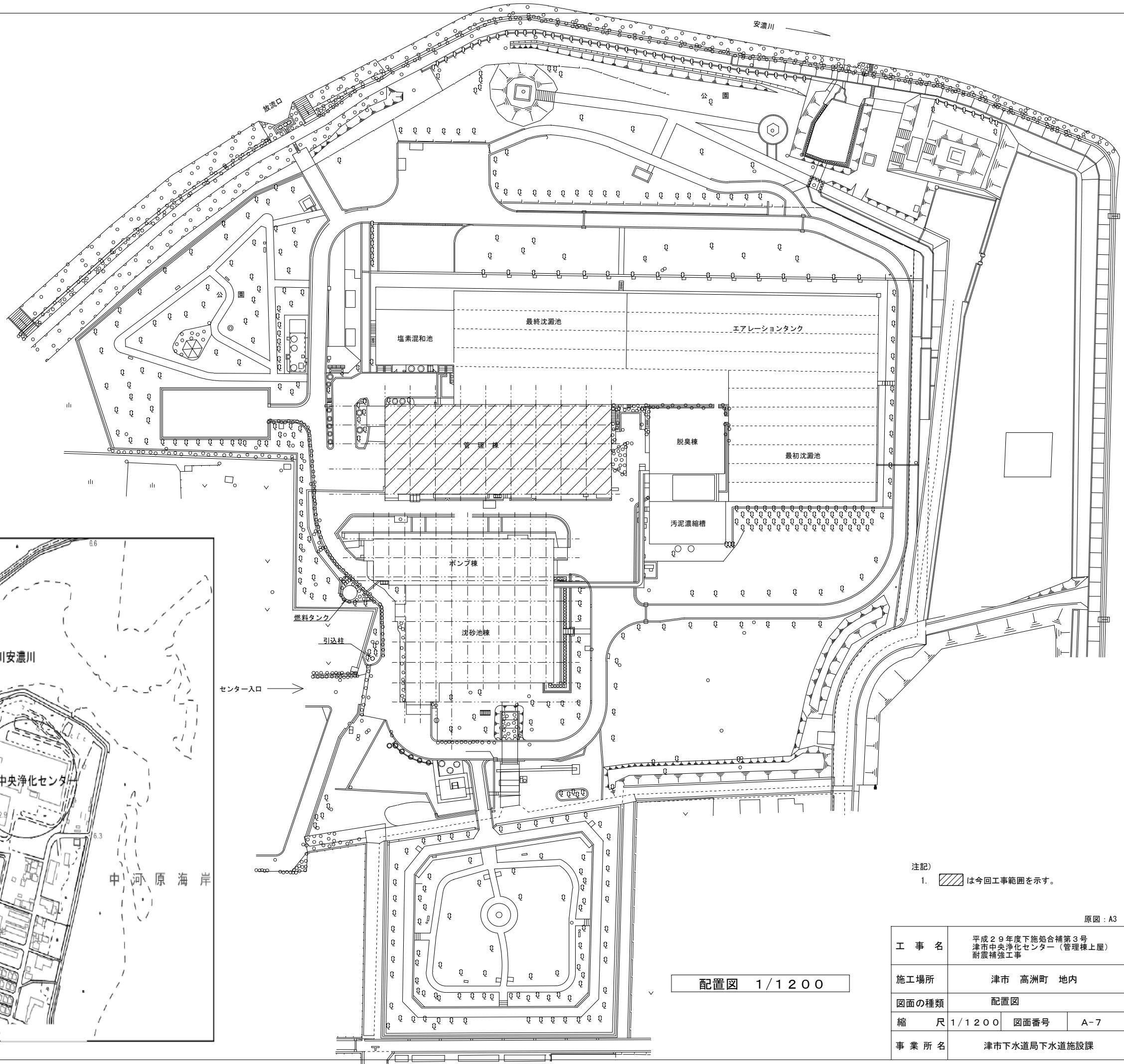
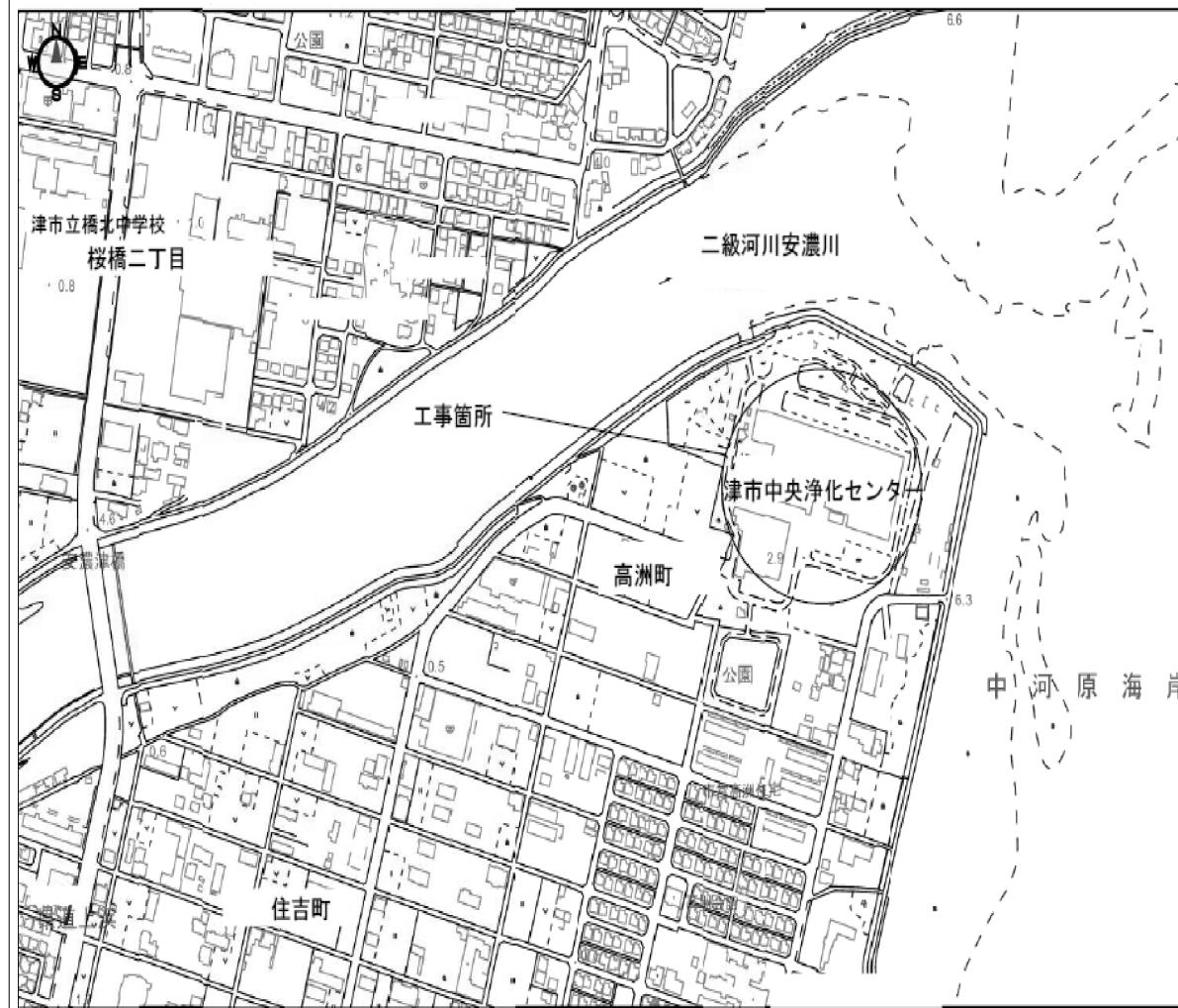
4 外壁改修工事 共通事項	1 施工数量調査	調査範囲 ※外壁改修範囲・図示の範囲 [1. 5. 2]		4-1 外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ外壁	1 ひび割れ部改修工法 ※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 3. 4]	注工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (ml/m) 備考			
		(1) ひび割れの幅及び長さを壁面に表示し、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び 排水の流れの有無を調査する。 (2) モルタル塗り仕上げ及びタルタル張り仕上げについては、浮き部分を表面に表示し、 欠損部の形状寸法等を調査する。 (3) コンクリート表面のはがれ及び落部を壁面に表示し、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。	(4) 塗り仕上げについては、コクリート又はモルタル表面のはがれ及び落部を 壁面に表示し、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。			※自動式低圧エボキシ 樹脂注入工法 ・手動式エボキシ樹脂 注入工法 ・機械式エボキシ樹脂 注入工法	0.2以上～1.0未満 ※200～300 ※130 0.2以上～0.3未満 ※50～100 ※40 0.3以上～0.5未満 ※100～200 ※70 0.5以上～1.0未満 ※150～250 ※130	※200～1.0未満 ※200～300 ※130 ※50～100 ※100～200 ※70 ※150～250 ※130	・
2 改修材料	・既製鋼合モルタル 保水率 単位容積質量 接着強さ (N/mm ²) 長さ変化率 曲げ強さ (N/mm ²)	接着強さ (標準) (kg/l) 標準時 温冷緩速後 (%)	0.60以上 1.80程度 0.60程度 0.40以上 0.20以下 4.0以上	4-2 外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ外壁	2 ひび割れ部改修工法 ※注入材料 [4. 2. 2] ※建築補修用注入エボキシ樹脂 (JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形)	注工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (ml/m) 備考			
		検査 (コア抜取り) ※行わない ・行う (抜取り部の補修方法:)	[4. 3. 4]			※自動式低圧エボキシ 樹脂注入工法 ・手動式エボキシ樹脂 注入工法 ・機械式エボキシ樹脂 注入工法	0.2以上～0.3未満 ※50～100 0.3以上～0.5未満 ※100～200 0.5以上～1.0未満 ※150～250	※200～1.0未満 ※200～300 ※130 ※50～100 ※100～200 ※70 ※150～250 ※130	・
3 改修工法	・Uカットシール材充填工法 充填材料 品質・規格等 備考	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 5]	・シーリング材 ※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・可とう性エボキシ樹脂	4-3 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁	1 既存タイル張りの撤去 ※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 3. 4] [4. 5. 5]	注工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (ml/m) 備考			
		・Uカットシール材充填工法 充填材料 品質・規格等 備考	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 5]			※自動式低圧エボキシ 樹脂注入工法 ・手動式エボキシ樹脂 注入工法 ・機械式エボキシ樹脂 注入工法	0.2以上～0.3未満 ※50～100 0.3以上～0.5未満 ※100～200 0.5以上～1.0未満 ※150～250	※200～1.0未満 ※200～300 ※130 ※50～100 ※100～200 ※70 ※150～250 ※130	・
4 改修工法	・可とう性エボキシ樹脂 比重 拾出しやすさ 加熱減量 引張強さ (N/mm ²) 伸び 引張接着性	接着強さ (標準) (N/mm ²) 伸び (%) 引張強さ (N/mm ²)	5.0以下 5.0以下 5.0以下 1.0未満 5.0以上 3.0以下	4-4 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁	2 欠損部改修工法 ※充填工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]	※充填工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]			
		(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。 (3) 常温常湿 (温度20±15°C、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後 6箇月保存したのちであっても、上記の品質性能の各項目に適合していること。 (4) 試験方法は、JIS A 6024 (建築補修用注入エボキシ樹脂) に準拠。	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 6]			・シール工法 ・バテ状エボキシ樹脂 ・可とう性エボキシ樹脂	※1.0未満 ※50～100 ※100～200	・	・
5 改修工法	・可とう性エボキシ樹脂 比重 拾出しやすさ 加熱減量 引張強さ (N/mm ²) 伸び 引張接着性	接着強さ (標準) (N/mm ²) 伸び (%) 引張強さ (N/mm ²)	5.0以下 5.0以下 5.0以下 1.0未満 5.0以上 3.0以下	4-5 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁	3 欠損部改修工法 ※充填工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]	※充填工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]			
		(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。 (3) 常温常湿 (温度20±15°C、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後 6箇月保存したのちであっても、上記の品質性能の各項目に適合していること。 (4) 試験方法は、JIS A 6024 (建築補修用注入エボキシ樹脂) に準拠。	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 6]			・シール工法 ・バテ状エボキシ樹脂 ・可とう性エボキシ樹脂	※1.0未満 ※50～100 ※100～200	・	・
6 改修工法	・Uカットシール材充填工法 充填材料 品質・規格等 備考	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 6]	・シーリング材 ※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・可とう性エボキシ樹脂	4-6 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁	4 浮き部改修工法 ※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]			
		(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) タイル・下地材等を侵さないでください。 (3) 「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」に規定された第一種特定化学物質及 び第二種特定化学物質、並びに「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」 に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 (4) 常温常湿 (温度20±15°C、湿度65±20%)において製造後6箇月保存しても上 記の品質性能に適合していること。	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 6]			・既存モルタル塗りの撤去 ※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	・行う (※全面・図示の範囲)	・	・
7 改修工法	・モルタル塗り仕上げ外壁	・既存モルタル塗りの撤去 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]		4-7 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁	5 次回改修工法 ※充填工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	※充填工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]			
		(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) タイル・下地材等を侵さないでください。 (3) 「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」に規定された第一種特定化学物質及 び第二種特定化学物質、並びに「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」 に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 (4) 常温常湿 (温度20±15°C、湿度65±20%)において製造後6箇月保存しても上 記の品質性能に適合していること。	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 6]			・既存モルタル塗りの撤去 ※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	・行う (※全面・図示の範囲)	・	・
8 改修工法	・モルタル塗り仕上げ外壁	・既存モルタル塗りの撤去 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]		4-8 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁	6 浮き部改修工法 ※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]			
		(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) タイル・下地材等を侵さないでください。 (3) 「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」に規定された第一種特定化学物質及 び第二種特定化学物質、並びに「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」 に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 (4) 常温常湿 (温度20±15°C、湿度65±20%)において製造後6箇月保存しても上 記の品質性能に適合していること。	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 6]			・既存モルタル塗りの撤去 ※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	・行う (※全面・図示の範囲)	・	・
9 改修工法	・モルタル塗り仕上げ外壁	・既存モルタル塗りの撤去 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]		4-9 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁	7 タイル張り ※充填工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	※充填工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]			
		(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) タイル・下地材等を侵さないでください。 (3) 「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」に規定された第一種特定化学物質及 び第二種特定化学物質、並びに「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」 に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 (4) 常温常湿 (温度20±15°C、湿度65±20%)において製造後6箇月保存しても上 記の品質性能に適合していること。	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 6]			・既存モルタル塗りの撤去 ※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	・行う (※全面・図示の範囲)	・	・
10 改修工法	・モルタル塗り仕上げ外壁	・既存モルタル塗りの撤去 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]		4-10 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁	8 目地改修工法 ※充填工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	※充填工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]			
		(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) 透水性裏面の濡れ、水滴の付着がないこと。 (3) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (4) ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後 6箇月保存しても変質しないこと。	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 6]			・既存モルタル塗りの撤去 ※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	・行う (※全面・図示の範囲)	・	・
11 改修工法	・モルタル塗り仕上げ外壁	・既存モルタル塗りの撤去 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]		4-11 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁	9 壁面調整工法 ※充填工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	※充填工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]			
		(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) 透水性裏面の濡れ、水滴の付着がないこと。 (3) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (4) ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後 6箇月保存しても変質しないこと。	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 6]			・既存モルタル塗りの撤去 ※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	・行う (※全面・図示の範囲)	・	・
12 改修工法	・モルタル塗り仕上げ外壁	・既存モルタル塗りの撤去 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]		4-12 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁	10 壁面調整工法 ※充填工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	※充填工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]			
		(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) 透水性裏面の濡れ、水滴の付着がないこと。 (3) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (4) ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後 6箇月保存しても変質しないこと。	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 6]			・既存モルタル塗りの撤去 ※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]	・行う (※全面・図示の範囲)	・	・
13 改修工									

⑤ 建具改修工事	1 改修工法	<table border="1"> <thead> <tr><th>建具の種類</th><th>かぶせ工法</th><th>撤去工法</th><th>適用箇所</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>・アルミニウム製建具</td><td>・</td><td>・</td><td>※建具表による 図示</td></tr> <tr><td>・鋼製建具</td><td>・外部</td><td>・</td><td>※建具表による 図示</td></tr> <tr><td>・内部</td><td>・</td><td>・</td><td>※建具表による 図示</td></tr> <tr><td>・鋼製軽量建具</td><td>・</td><td>・</td><td>※建具表による 図示</td></tr> <tr><td>・ステンレス製建具</td><td>・</td><td>・</td><td>※建具表による 図示</td></tr> </tbody> </table> <p>[5. 1. 3]</p>	建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適用箇所	・アルミニウム製建具	・	・	※建具表による 図示	・鋼製建具	・外部	・	※建具表による 図示	・内部	・	・	※建具表による 図示	・鋼製軽量建具	・	・	※建具表による 図示	・ステンレス製建具	・	・	※建具表による 図示	10 自動ドア開閉装置	<table border="1"> <thead> <tr><th>ドアの種類</th><th>センサーの種類</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>※スライディングドア</td><td>・マットスイッチ ※光線（反射）スイッチ</td></tr> <tr><td>種類 SSDL-D-1 ・SSLD-2</td><td>・熱線スイッチ ・音波スイッチ</td></tr> <tr><td>・DSL-D-1 ・DSL-D-2</td><td>・光電スイッチ ・電波スイッチ</td></tr> <tr><td>・スイングドア</td><td>・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ</td></tr> <tr><td>種類 SWD-1 ・SWD-2</td><td>・ペダルスイッチ ・多機能便所スイッチ</td></tr> </tbody> </table> <p>[5. 8. 2. 3] [表 5. 8. 1~3]</p>	ドアの種類	センサーの種類	※スライディングドア	・マットスイッチ ※光線（反射）スイッチ	種類 SSDL-D-1 ・SSLD-2	・熱線スイッチ ・音波スイッチ	・DSL-D-1 ・DSL-D-2	・光電スイッチ ・電波スイッチ	・スイングドア	・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ	種類 SWD-1 ・SWD-2	・ペダルスイッチ ・多機能便所スイッチ	⑥ 内装改修工事	① 改修範囲	<p>既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合戸井、壁、床の改修範囲 [6. 1. 3]</p> <p>※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う</p> <p>○図示の範囲</p> <p>天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合戸井の改修範囲 [6. 1. 3]</p> <p>※壁面より両側 600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う</p> <p>○図示の範囲</p> <p>天井の撤去に伴う取合い部の壁面の改修 [6. 1. 3]</p> <p>※既存のまま</p> <p>○図示の範囲</p> <p>・凍結防止措置（適用箇所は建具表による） [5. 8. 3]</p>	⑨ 軽量鉄骨天井下地	野縫等の種類 [6. 6. 2] [表 6. 6. 1]																																				
建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適用箇所																																																																														
・アルミニウム製建具	・	・	※建具表による 図示																																																																														
・鋼製建具	・外部	・	※建具表による 図示																																																																														
・内部	・	・	※建具表による 図示																																																																														
・鋼製軽量建具	・	・	※建具表による 図示																																																																														
・ステンレス製建具	・	・	※建具表による 図示																																																																														
ドアの種類	センサーの種類																																																																																
※スライディングドア	・マットスイッチ ※光線（反射）スイッチ																																																																																
種類 SSDL-D-1 ・SSLD-2	・熱線スイッチ ・音波スイッチ																																																																																
・DSL-D-1 ・DSL-D-2	・光電スイッチ ・電波スイッチ																																																																																
・スイングドア	・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ																																																																																
種類 SWD-1 ・SWD-2	・ペダルスイッチ ・多機能便所スイッチ																																																																																
2 見本の製作等	・特殊な建具の仮組（建具符号：） [5. 1. 5]		11 自閉式上吊り引戸装置	<table border="1"> <thead> <tr><th>材料</th><th>性能</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>※SUS 304、アルミニウム製等防銹性能を有するもの</td><td>・製造所標準仕様による</td></tr> <tr><td>性能</td><td>※改修標仕 5. 8. 3による</td></tr> <tr><td></td><td>・改修所標準仕様による</td></tr> </tbody> </table> <p>[5. 9. 2] [5. 9. 3] [表 5. 9. 1]</p>	材料	性能	※SUS 304、アルミニウム製等防銹性能を有するもの	・製造所標準仕様による	性能	※改修標仕 5. 8. 3による		・改修所標準仕様による	② 既存床の撤去並びに下地補修	<p>ビニール床シート等の除去 ※仕上げ材のみ（接着剤共） [6. 2. 2]</p> <p>○下地モルタル層（※図示の範囲・除去範囲すべて）</p> <p>合成樹脂塗材の除去工法 ○機械的除去工法・目差し工法 [6. 2. 2]</p> <p>改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内 [6. 2. 2]</p>	⑩ 軽量鉄骨天井下地	野縫等の種類 [6. 6. 2] [表 6. 6. 1]																																																																	
材料	性能																																																																																
※SUS 304、アルミニウム製等防銹性能を有するもの	・製造所標準仕様による																																																																																
性能	※改修標仕 5. 8. 3による																																																																																
	・改修所標準仕様による																																																																																
3 防犯建物部品	・適用する（適用箇所は建具表による） [5. 1. 7]		12 重量シャッター	<table border="1"> <thead> <tr><th>シャッターの種類</th><th>性 能</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>・一般重量シャッター</td><td>耐風圧性能 () N/m</td></tr> <tr><td>・外壁用防火シャッター</td><td>耐風圧性能 () N/m</td></tr> <tr><td>・屋内用防火シャッター</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>[5. 10. 2]</p>	シャッターの種類	性 能	・一般重量シャッター	耐風圧性能 () N/m	・外壁用防火シャッター	耐風圧性能 () N/m	・屋内用防火シャッター		③ 既存壁の撤去並びに下地補修	<p>間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 [6. 3. 2] [4. 4. 9]</p> <p>※モルタル塗り（塚厚 2.5mm を超える場合の補強）※行う・行わない</p> <p>・図示</p>	⑪ ビニール床シート、ビニール床タイル及びゴム床タイル張り	野縫等の種類 [6. 6. 2]																																																																	
シャッターの種類	性 能																																																																																
・一般重量シャッター	耐風圧性能 () N/m																																																																																
・外壁用防火シャッター	耐風圧性能 () N/m																																																																																
・屋内用防火シャッター																																																																																	
4 アルミニウム製建具	性能等等 [5. 2. 2] [表 5. 2. 1]	外部に面する建具	13 軽量シャッター	<table border="1"> <thead> <tr><th>開閉機能</th><th>・上部電動式（手動併用）・上部手動式</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>危害防止機構</td><td>※障害物感知装置（自動閉鎖型）</td></tr> <tr><td>一般重量シャッターのシャッターケース</td><td>※設ける・設けない</td></tr> <tr><td>ガイドレール形式</td><td>※耐風型（はずれ止めを設ける）・一般型</td></tr> </tbody> </table> <p>[5. 10. 2] [表 5. 10. 1]</p>	開閉機能	・上部電動式（手動併用）・上部手動式	危害防止機構	※障害物感知装置（自動閉鎖型）	一般重量シャッターのシャッターケース	※設ける・設けない	ガイドレール形式	※耐風型（はずれ止めを設ける）・一般型	④ 木材	<p>表面仕上げの程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A種 ※B種 ・C種 <p>[6. 5. 1] [表 6. 5. 1]</p> <p>現場搬入時の木材の含水率</p> <ul style="list-style-type: none"> ※A種 ・B種 <p>[6. 5. 2]</p> <p>保存処理材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用する（適用箇所：） <p>[6. 5. 2]</p> <p>構造材及び下地材の品質の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ※改修標仕 6. 5. 2 (a) (2) (iv) による ・A種 ・B種 <p>[6. 5. 2] [表 6. 5. 3]</p> <p>造作材の材面の品質の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ※A種 ・B種 <p>[6. 5. 2] [表 6. 5. 4]</p> <p>代用樹脂を使用しない箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> () <p>[6. 5. 2] [表 6. 5. 4]</p>	⑫ 集成材等	<p>集成材及び単板積層材のホルムアルデヒド放散量</p> <ul style="list-style-type: none"> ※規制対象外 ・第三種 <p>[6. 5. 2]</p>	野縫等の種類 [6. 6. 2] [表 6. 6. 1]																																																																
開閉機能	・上部電動式（手動併用）・上部手動式																																																																																
危害防止機構	※障害物感知装置（自動閉鎖型）																																																																																
一般重量シャッターのシャッターケース	※設ける・設けない																																																																																
ガイドレール形式	※耐風型（はずれ止めを設ける）・一般型																																																																																
5 鋼製建具	表面処理 [5. 2. 4] [表 5. 2. 2]	外部に面する建具	14 防臭シャッター	<table border="1"> <thead> <tr><th>開閉形式</th><th>・上部電動式（手動併用）・上部手動式</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>スラット</td><td>材質 ※JIS G 3312（塗装溶融垂鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）</td></tr> <tr><td></td><td>又は JIS G 3318（塗装溶融垂鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）</td></tr> <tr><td></td><td>・鋼板</td></tr> </tbody> </table> <p>[5. 11. 2]</p> <p>形状 ※インターロッキング形・オーバーラッピング形 [5. 11. 4]</p> <p>ガイドレール等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鋼板製 ・ステンレス製 SUS 304（厚さ 1.5mm） <p>[5. 11. 2]</p> <p>耐風圧性能 (N/m) ² ≈500 · 650 · 800</p>	開閉形式	・上部電動式（手動併用）・上部手動式	スラット	材質 ※JIS G 3312（塗装溶融垂鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）		又は JIS G 3318（塗装溶融垂鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）		・鋼板	⑬ 構造用集成材	<p>構造用集成材 [6. 5. 2]</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>施工箇所</th><th>品名</th><th>强度等級</th><th>材面の品質</th><th>接着性能</th><th>樹種名</th><th>寸法 (mm)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td>・1種</td><td>・使用環境 A</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>・2種</td><td>・使用環境 B</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>・3種</td><td>・使用環境 C</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	施工箇所	品名	强度等級	材面の品質	接着性能	樹種名	寸法 (mm)				・1種	・使用環境 A						・2種	・使用環境 B						・3種	・使用環境 C			野縫等の種類 [6. 6. 2] [表 6. 6. 1]																																						
開閉形式	・上部電動式（手動併用）・上部手動式																																																																																
スラット	材質 ※JIS G 3312（塗装溶融垂鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）																																																																																
	又は JIS G 3318（塗装溶融垂鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）																																																																																
	・鋼板																																																																																
施工箇所	品名	强度等級	材面の品質	接着性能	樹種名	寸法 (mm)																																																																											
			・1種	・使用環境 A																																																																													
			・2種	・使用環境 B																																																																													
			・3種	・使用環境 C																																																																													
6 鋼製軽量建具	表面処理 [5. 2. 4] [表 5. 2. 1]	外部に面する大型建具の耐風圧性（大型建具を除く）	15 オーバーヘッドドア	<table border="1"> <thead> <tr><th>開閉形式</th><th>※上部電動式（手動併用）・上部手動式</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>スラット</td><td>材質</td></tr> <tr><td></td><td>※JIS G 3302（溶融垂鉛めっき鋼板及び鋼帯）又は JIS G 3312（塗装溶融垂鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）</td></tr> <tr><td></td><td>・鋼板</td></tr> </tbody> </table> <p>[5. 11. 2]</p> <p>耐風圧性能 (N/m) ² ≈1,200 · 800</p>	開閉形式	※上部電動式（手動併用）・上部手動式	スラット	材質		※JIS G 3302（溶融垂鉛めっき鋼板及び鋼帯）又は JIS G 3312（塗装溶融垂鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）		・鋼板	⑭ 構造用集成材	<p>構造用集成材 [6. 5. 2]</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>施工箇所</th><th>樹種名</th><th>見付け材面の品質</th><th>寸法 (mm)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td>※1等 · 2等</td><td></td></tr> </tbody> </table>	施工箇所	樹種名	見付け材面の品質	寸法 (mm)			※1等 · 2等		野縫等の種類 [6. 6. 2] [表 6. 6. 1]																																																										
開閉形式	※上部電動式（手動併用）・上部手動式																																																																																
スラット	材質																																																																																
	※JIS G 3302（溶融垂鉛めっき鋼板及び鋼帯）又は JIS G 3312（塗装溶融垂鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）																																																																																
	・鋼板																																																																																
施工箇所	樹種名	見付け材面の品質	寸法 (mm)																																																																														
		※1等 · 2等																																																																															
7 ステンレス製建具	表面仕上げ [5. 2. 4] [表 5. 2. 1]	外部に面する大型建具の耐風圧性（大型建具を除く）	16 ガラス	<table border="1"> <thead> <tr><th>セクション材料</th><th>開閉方式</th><th>収納形式</th><th>ガイドレールの材質</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>※スチールタイプ</td><td>※パラボル式</td><td>・スタンダード形</td><td>※溶融垂鉛めっき鋼板</td></tr> <tr><td>・アルミニウムタイプ</td><td>・チェーン式</td><td>・ローハンド形</td><td></td></tr> <tr><td>・ファイバーグラスタイプ</td><td>・電動式</td><td>・ハイリフト形</td><td>・ステンレス鋼板 (SUS 304)</td></tr> <tr><td>・断熱タイプ</td><td></td><td>・バーカル形</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>[5. 12. 2]</p> <p>耐風圧性能 () 500 · 750 · 1,000 · 1,250 N/m²</p>	セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレールの材質	※スチールタイプ	※パラボル式	・スタンダード形	※溶融垂鉛めっき鋼板	・アルミニウムタイプ	・チェーン式	・ローハンド形		・ファイバーグラスタイプ	・電動式	・ハイリフト形	・ステンレス鋼板 (SUS 304)	・断熱タイプ		・バーカル形		⑮ 床張り用合板及びその他の合板	<p>化粧板及び作業集成材 [6. 5. 2]</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>施工箇所</th><th>心材の樹種名</th><th>化粧薄材の樹種名</th><th>化粧薄材の厚さ (mm)</th><th>見付け材面の品質</th><th>寸法 (mm)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>※1等 · 2等</td><td></td></tr> </tbody> </table>	施工箇所	心材の樹種名	化粧薄材の樹種名	化粧薄材の厚さ (mm)	見付け材面の品質	寸法 (mm)					※1等 · 2等		野縫等の種類 [6. 6. 2] [表 6. 6. 1]																																										
セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレールの材質																																																																														
※スチールタイプ	※パラボル式	・スタンダード形	※溶融垂鉛めっき鋼板																																																																														
・アルミニウムタイプ	・チェーン式	・ローハンド形																																																																															
・ファイバーグラスタイプ	・電動式	・ハイリフト形	・ステンレス鋼板 (SUS 304)																																																																														
・断熱タイプ		・バーカル形																																																																															
施工箇所	心材の樹種名	化粧薄材の樹種名	化粧薄材の厚さ (mm)	見付け材面の品質	寸法 (mm)																																																																												
				※1等 · 2等																																																																													
8 木製建具	表面仕上げ [5. 2. 4] [表 5. 2. 1]	外部に面する大型建具の耐風圧性（大型建具を除く）	17 ガラス	<table border="1"> <thead> <tr><th>板ガラスの材種、厚さ等</th><th>は建具表による</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>強化ガラス</td><td>板ガラスの材種</td></tr> <tr><td></td><td>・図示</td></tr> <tr><td></td><td>・フロート板強化ガラス</td></tr> </tbody> </table> <p>[5. 13. 2]</p> <p>耐風圧性能 () 500 · 750 · 1,000 · 1,250 N/m²</p>	板ガラスの材種、厚さ等	は建具表による	強化ガラス	板ガラスの材種		・図示		・フロート板強化ガラス	⑯ 合板のホルムアルデヒド放散量	<p>合板のホルムアルデヒド放散量</p> <ul style="list-style-type: none"> ※規制対象外 ・第三種 	野縫等の種類 [6. 6. 2] [表 6. 6. 1]																																																																		
板ガラスの材種、厚さ等	は建具表による																																																																																
強化ガラス	板ガラスの材種																																																																																
	・図示																																																																																
	・フロート板強化ガラス																																																																																
9 建具用金物	表面仕上げ [5. 2. 4] [表 5. 2. 1]	外部に面する大型建具の耐風圧性（大型建具を除く）	18 ガラス	<table border="1"> <thead> <tr><th>普通合板</th><th>表裏の品質</th><th>防虫処理</th><th>寸法 (mm)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td>・する</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>・塗装加工</td><td>・しない</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>・化粧加工しない</td><td>(-)</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>・1等 · 2等 · 3等</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	普通合板	表裏の品質	防虫処理	寸法 (mm)			・する			・塗装加工	・しない			・化粧加工しない	(-)			・1等 · 2等 · 3等			⑰ カーベット敷き	<p>カーベット [6. 9. 3] [表 6. 9. 1]</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>種 別</th><th>パイル形状</th><th>織り方</th><th>色柄等</th><th>帶電性</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>A種</td><td>・カットパイル</td><td>・ワイルド</td><td>※無地</td><td>○ 300 × 300</td><td>・電防</td></tr> <tr><td>B種</td><td>・ループパイル</td><td>・</td><td>・柄物</td><td>○ 450 × 450</td><td>・</td></tr> <tr><td>C種</td><td>・カット、ループ併用</td><td>・</td><td>・色柄 (標準品)</td><td>○ 300 × 300</td><td>・</td></tr> <tr><td></td><td>・コンポジションビニル床タイル (軟質)</td><td>・</td><td></td><td>○ 450 × 450</td><td>・電防</td></tr> <tr><td></td><td>・ホモジニアス</td><td>・</td><td>・無地</td><td>○ 300 × 300</td><td>・電防</td></tr> <tr><td></td><td>・ビニール床タイル</td><td>・</td><td>・柄物</td><td>○ 450 × 450</td><td>・電防</td></tr> <tr><td></td><td>・直敷き</td><td>・</td><td>・無地</td><td>○ 500 × 500</td><td>・</td></tr> <tr><td></td><td>・ビニール床タイル</td><td>・</td><td>・無地</td><td>○ 500 × 500</td><td>・電防</td></tr> </tbody> </table>	種 別	パイル形状	織り方	色柄等	帶電性	備考	A種	・カットパイル	・ワイルド	※無地	○ 300 × 300	・電防	B種	・ループパイル	・	・柄物	○ 450 × 450	・	C種	・カット、ループ併用	・	・色柄 (標準品)	○ 300 × 300	・		・コンポジションビニル床タイル (軟質)	・		○ 450 × 450	・電防		・ホモジニアス	・	・無地	○ 300 × 300	・電防		・ビニール床タイル	・	・柄物	○ 450 × 450	・電防		・直敷き	・	・無地	○ 500 × 500	・		・ビニール床タイル	・	・無地	○ 500 × 500	・電防	野縫等の種類 [6. 6. 2] [表 6. 6. 1]
普通合板	表裏の品質	防虫処理	寸法 (mm)																																																																														
		・する																																																																															
	・塗装加工	・しない																																																																															
	・化粧加工しない	(-)																																																																															
	・1等 · 2等 · 3等																																																																																
種 別	パイル形状	織り方	色柄等	帶電性	備考																																																																												
A種	・カットパイル	・ワイルド	※無地	○ 300 × 300	・電防																																																																												
B種	・ループパイル	・	・柄物	○ 450 × 450	・																																																																												
C種	・カット、ループ併用	・	・色柄 (標準品)	○ 300 × 300	・																																																																												
	・コンポジションビニル床タイル (軟質)	・		○ 450 × 450	・電防																																																																												
	・ホモジニアス	・	・無地	○ 300 × 300	・電防																																																																												
	・ビニール床タイル	・	・柄物	○ 450 × 450	・電防																																																																												
	・直敷き	・	・無地	○ 500 × 500	・																																																																												
	・ビニール床タイル	・	・無地	○ 500 × 500	・電防																																																																												
10 木製建具	表面仕上げ [5. 2. 4] [表 5. 2. 1]	外部に面する大型建具の耐風圧性（大型建具を除く）	19 ガラス	<table border="1"> <thead> <tr><th>複層ガラス</th><th>板ガラスの材種</th><th>断熱性</th><th>耐熱性</th><th>耐久性</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>板ガラスの材種</td><td>・日射熱遮蔽性による区分</td><td>・遮熱性</td><td>・耐久性</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>・1種</td><td>・2種</td><td>・3種</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>・2種</td><td>・3種</td><td>・3種 (U-1) · 3種 (U-2) · 4種</td></tr> </tbody> </table> <p>[5. 13. 2]</p> <p>耐熱反射ガラス</p> <ul style="list-style-type: none"> 板ガラスの材種 ・図示 ・フロート板強化ガラス <p>色調</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グレー ・ブルー ・ブロンズ ・グリーン 	複層ガラス	板ガラスの材種	断熱性	耐熱性	耐久性		板ガラスの材種	・日射熱遮蔽性による区分	・遮熱性	・耐久性			・1種	・2種	・3種			・2種	・3種	・3種 (U-1) · 3種 (U-2) · 4種	⑱ タフテッドカーベット	<p>タフテッドカーベット [6. 9. 3] [表 6. 9. 2]</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>パイル形状</th><th>パイル長さ (mm)</th><th>工 法</th><th>帶電性</th><th>備 考</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>・カットパイル</td><td>※5~7</td><td></td><td></td><td>※全面接着工法</td></tr> <tr><td>・ループパイル</td><td>※4~6</td><td></td><td></td><td>3kV以下</td></tr> <tr><td>・レベルレープパイル</td><td>※4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>・カット、ループ併用</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	パイル形状	パイル長さ (mm)	工 法	帶電性	備 考	・カットパイル	※5~7			※全面接着工法	・ループパイル	※4~6			3kV以下	・レベルレープパイル	※4				・カット、ループ併用					野縫等の種類 [6. 6. 2] [表 6. 6. 1]																													
複層ガラス	板ガラスの材種	断熱性	耐熱性	耐久性																																																																													
	板ガラスの材種	・日射熱遮蔽性による区分	・遮熱性	・耐久性																																																																													
		・1種	・2種	・3種																																																																													
		・2種	・3種	・3種 (U-1) · 3種 (U-2) · 4種																																																																													
パイル形状	パイル長さ (mm)	工 法	帶電性	備 考																																																																													
・カットパイル	※5~7			※全面接着工法																																																																													
・ループパイル	※4~6			3kV以下																																																																													
・レベルレープパイル	※4																																																																																
・カット、ループ併用																																																																																	
11 建具用金物	表面仕上げ [5. 2. 4] [表 5. 2. 1]	外部に面する大型建具の耐風圧性（大型建具を除く）	20 ガラス	<table border="1"> <thead> <tr><th>下敷き材</th><th>※反毛フルット (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 8mm</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	下敷き材	※反毛フルット (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 8mm			⑲ ニードルパンチカーベット	<p>ニードルパンチカーベット [6. 9. 3]</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>厚さ (mm)</th><th>帶電性</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>・</td><td>※人体帶電圧 3kV以下</td><td></td></tr> </tbody> </table>	厚さ (mm)	帶電性	備考	・	※人体帶電圧 3kV以下		野縫等の種類 [6. 6. 2] [表 6. 6. 1]																																																																
下敷き材	※反毛フルット (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 8mm																																																																																
厚さ (mm)	帶電性	備考																																																																															
・	※人体帶電圧 3kV以下																																																																																
12 木製建具	表面仕上げ [5. 2. 4] [表 5. 2. 1]	外部に面する大型建具の耐風圧性（大型建具を除く）	21 ガラス	<table border="1"> <thead> <tr><th>タイルカーベット</th><th>パイル形状</th><th>種 類</th><th>寸法 (mm)</th><th>総厚さ (mm)</th><th>帶電性</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>・ループパイル</td><td>※第一種</td><td>・</td><td>※500 × 500</td><td>6. 5</td><td>※人体帶電圧 3kV以下</td><td></td></tr> <tr><td>・カットパイル</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>以下 (フリーアクセス フロア</td></tr></tbody></table>	タイルカーベット	パイル形状	種 類	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	帶電性	備考	・ループパイル	※第一種	・	※500 × 500	6. 5	※人体帶電圧 3kV以下		・カットパイル	・	・	・	・	以下 (フリーアクセス フロア																																																									
タイルカーベット	パイル形状	種 類	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	帶電性	備考																																																																											
・ループパイル	※第一種	・	※500 × 500	6. 5	※人体帶電圧 3kV以下																																																																												
・カットパイル	・	・	・	・	以下 (フリーアクセス フロア																																																																												

① コンクリートの種類 及び強度	レディーミクストコンクリートの類別 ※Ⅰ類・Ⅱ類 [8.1.3]				8-5 鉄骨工事	1 鉄骨製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 [8.1.5]		構造用モルタル [8.2.10] [8.5.10]		9 環境配慮改修工事	1 アスベスト含有材の 処理工事	分析によるアスベスト含有の調査 [9.1.1]				
	普通コンクリートの設計基準強度 [8.1.3]						※建築基準法第7条の4第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた （株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鋼構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」 に定める（ ）グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力の ある工場。 ・監督職員の承諾する工場	柱底均しモルタル [8.2.10]	※無収縮モルタル [8.2.10]	無収縮モルタル及び無収縮グラウト材の仕様は以下による 無収縮グラウトの材料及び調合	分析方法 ※JIS A 1481 (建材製品中のアスベスト含有率測定方法) による		・行う (採取箇所 ※図示) 各材料に対して1検体 (3箇所) 調査方法				
設計基準強度Fc (N/mm²)																	
※2.1		適用箇所					・	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張性を有するもの) とする。	J IS R 5210 (ボルトランドセメント) による普通または早強ボルトランドセメントとする。	分析結果については、監督職員に報告すること	・行う (採取箇所 ※図示)						
気乾単位容積質量 (t/m³)																	
※2.1		壁					セメント	J IS R 5210 (ボルトランドセメント) による普通または早強ボルトランドセメントとする。	報告書の書式 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」	・行う (採取箇所 ※図示)							
鉄骨の溶接条件																	
・		・1種・2種					砂	(社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)	・行う (測定時期、場所及び測定点数)							
溶接条件							配合比	(各重量比) (セメント+混和材) : 砂 = 1 : 1	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・1種・2種					無収縮モルタルの品質及び試験方法 [表8.2.8]	コンステンシー	Jロートによる流下時間 練泥ゼ完了から3分以内の値 8±2秒	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)	・行う (測定時期、場所及び測定点数)						
溶接条件							ブリーディング	練泥ゼ2時間後のブリーディング率 2.0%以下	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・					凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 1時間以内	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							無収縮性	材齡3日 収縮しないこと	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・					圧縮強度	材齡3日 25.0 N/mm ² 以上	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							付着強度	材齡28日 4.5 N/mm ² 以上	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・					塩化物量	0.30kg/m ³ 以上	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							試験方法	1)日本道路公団規格JHS312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 2)塩化物量は、JISA5308 (レディミクストコンクリート) 9.6塩化物含有量の試験方法による。	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・					無収縮グラウト材の材料 (プレミックス及び現場調合形)	混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張性を有するもの) とする。	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)							
溶接条件							セメント	JIS R 5210 (ボルトランドセメント) による普通又は早強ボルトランドセメントとする。	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・					砂	(社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							無収縮グラウト材の品質及び試験方法 (現場調合形においては標準使用量・配合値)	コンステンシー	Jロートによる流下時間 練泥ゼ完了から3分以内の値 8±2秒	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」							
・		・					ブリーディング	練泥ゼ2時間後のブリーディング率 2.0%以下	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 1時間以内	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・					無収縮性	材齡7日 収縮しないこと	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							圧縮強度	材齡3日 20.0 N/mm ² 以上	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・					付着強度	材齡28日 2.5 N/mm ² 以上	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							塩化物量	0.30kg/m ³ 以上	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・					試験方法	1)日本道路公団規格JHS312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 2)塩化物量は、JISA5308 (レディミクストコンクリート) 9.6塩化物含有量の試験方法による。	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							無収縮グラウト材の材料 (プレミックス及び現場調合形)	混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張性を有するもの) とする。	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」							
・		・					セメント	JIS R 5210 (ボルトランドセメント) による普通又は早強ボルトランドセメントとする。	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							砂	(社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・					無収縮性	材齡7日 収縮しないこと	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							圧縮強度	材齡3日 20.0 N/mm ² 以上	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・					付着強度	材齡28日 2.5 N/mm ² 以上	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							塩化物量	0.30kg/m ³ 以上	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・					試験方法	1)日本道路公団規格JHS312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 2)塩化物量は、JISA5308 (レディミクストコンクリート) 9.6塩化物含有量の試験方法による。	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							無収縮グラウト材の材料 (プレミックス及び現場調合形)	混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張性を有するもの) とする。	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」							
・		・					セメント	JIS R 5210 (ボルトランドセメント) による普通又は早強ボルトランドセメントとする。	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							砂	(社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・		・					無収縮性	材齡7日 収縮しないこと	アスベスト粉じん濃度測定 ・行う (測定箇所 ※図示)								
溶接条件							圧縮強度	材齡3日 20.0 N/mm ² 以上	測定方法 ・(社)日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」								
・																	

9 環境配慮改修工事	2 外断熱改修工事	断熱材の種類				[9. 3. 2]	10 ユニット及びその他工事
		種類	発泡剤の種類	ホルムアルデヒド放散による区分	厚さ(mm)		
3 ガラス改修工事	4 断熱・防露改修工事	・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	A種	F☆☆☆☆等級	・		
		・押出法ポリスチレンフォーム保温材	A種	F☆☆☆☆等級	・		
		・硬質ウレタンフォーム保温材	A種	F☆☆☆☆等級	・		
		・フェノールフォーム保温材	A種	F☆☆☆☆等級	・		
		・ロコワール	・	F☆☆☆☆等級	・		
		・グラスワール	・	F☆☆☆☆等級	・		
		外装材の種類				[9. 3. 2]	
		種類		防火性能			
		既存外壁の仕上材の撤去	・あり	・なし		[9. 3. 3]	
		下地面の清掃及び下地調整	※断熱材製造所の指定する仕様			[9. 3. 3. 4]	
5 屋上緑化改修工事	6 透水性アスファルト舗装改修工事	通気層	・あり (mm)	・なし		[9. 3. 4]	
		試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承認を受ける。				[9. 3. 4]	
		特記なき事項は、製造所の仕様による。					
		複層ガラスの厚さ 建具表による				[9. 4. 2]	
		複層ガラスの断熱性・日射遮へい性による区分	※U3-1	・U3-2		[9. 4. 2]	
		断熱材の種類				[9. 5. 2. 3]	
		種類	発泡剤の種類等	厚さ(mm)	施工箇所		
		・ビーズ法ポリスチレン	A種				
		・押出法ポリスチレン	・保温板2種b	A種	※25	※一般部	
		打込み工法	・保温板3種b (スキン層付き)	・	※25	・接地部分	
		・硬質ウレタンフォーム保温材	・	※A種			
		現場発泡工法	・吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種	難燃性を有するもの	・	・一般部
		添加量 (kg/m ²)			※15		
		・ジオテキスタイル					
		単位面積質量 60g/m ² 以上					
		厚さ (mm) 0.5~1.0					
		引張強さ 98N/5cm(10kgf/5cm)以上					
		透水係数 1.5×10cm/sec以上					
		盛土の種別 A種 B種 C種 D種					
		・建設汚泥から再生した処理土					
		遮断層及び凍土抑制層の材料					
		・遮断層 淵川砂、海砂又は良質な山砂					
		厚さは図示					
		・凍土抑制層 冬再生クラッシャラン・クラッシャラン・切込砂利・砂					
		厚さは図示					
		発生土の処理	※横外搬出適切処理				
		・構内指定場所に敷均し					
		・構内指定場所に堆積					
		・構内指定場所に処分(搬出検査等を監督職員に提出する)					
		路床土の支持力比(CBR)試験	※行う	・行わない			
		路床の締固め度試験	※行う	・行わない			
		砂の粒度試験	※行う	・行わない			
		路盤材料	・再生クラッシャラン	・			
		・クラッシャラン鉄鋼スラグ					
		路盤厚さ (mm)	車道部	※150			
			歩道部	※100			
		路盤の締固め度試験	※行う	・行わない			
		舗装材料及び厚さ					
		車道部	※改質アスファルトI型	厚さ (mm)	※50		
			歩道部	※ストレートアスファルト	厚さ (mm)	※30	
		透水性アスファルト混合物等の抽出試験	※行う	・行わない			
7 P C B 含有シーリング材処分	10 ブラインド	・第一次判定					
		現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びP C B含有分析の要否を判定する					
		採取箇所数 計	箇所				
		採取箇所	※図示				
		・第二次判定					
		専門分析機関にてP C B含有量の分析を行う					
		分析箇数 計	箇所				
11 ロールスクリーン	27 吊りフック	・除去処理工事					
		除去範囲	※図示				
		撤去方法	・標準施工要領書	(日本シーリング工事業共同組合連合会・日本シーリング工業会)による			
		・					
		既存再使用する(養生方法:)				[2. 3. 1] [5. 1. 6]	
		・新設する				[2. 0. 2. 1. 2]	
		形 式	種 類	スラットの材質	スラットの幅 (mm)	施工箇所	
		※横型	・ギヤ式	・コード式	※アルミニウム合金製	※25	
			・操作棒式				
		・縦型	・1本操作コード	・アルミスラット	・80		
			・2本操作コード	・クロススラット	・100		
12 カーテン	28 ホイストレール	既存再使用する(養生方法:)				[2. 3. 1] [5. 1. 6]	
		・新設する				(2. 0. 2. 1. 4)	
		形 式	開閉操作	ひだの種類	施工箇所	備 考	
		・シングル	・片引き	・電動	・フランジひだ		
		・ダブル	・引分け	・手引き	・箱ひだ・つまひだ		
					・ブレーンひだ・片ひだ		
						(暗幕)	
13 カーテンレール	29 トップライト	既存再使用する				[5. 1. 6]	
		・新設する				(2. 0. 2. 1. 4)	
		材種	※アルミニウム製	・ステンレス製			
		形式	・片引き	・引分け	(※暗幕用は300mm以上の召合せの重ね掛けとする)		
		形状	・C形	・D形	・I形		
		既存再使用する				[5. 1. 6]	
		・新設する				(2. 0. 2. 1. 4)	
		材種	※アルミニウム製	・ラウンP			
		形式	・片引き	・引分け	(※B-1・B-2 (※ブラウン系・ブラック・スティカラーラー))		
		・					
14 ブラインドボックス及びカーテンボックス	30 煙突ライニング	既存再使用する				[5. 1. 6]	
		・新設する				(2. 0. 2. 1. 4)	
		材種	※アルミニウム製	・スティール製			
		形式	・片引き	・引分け			
		形状	・C形	・D形	・I形		
		既存再使用する				[5. 1. 6]	
		・新設する				(2. 0. 2. 1. 4)	
		材種	※アルミニウム製	・木製			
		形式	・片引き	・引分け			
		形状	・C形	・D形	・I形		
15 天井点検口	31 水質実験台など	既存再使用する				[5. 1. 6]	
		・新設する				(2. 0. 2. 1. 4)	
		材種	※アルミニウム製	・ラウンP			
		形式	・片引き	・引分け			
		形状	・C形	・D形	・I形		
		既存再使用する				[5. 1. 6]	
		・新設する				(2. 0. 2. 1. 4)	
		材種	※アルミニウム製	・スティール製			
		形式	・片引き	・引分け			
		形状	・C形	・D形	・I形		
16 床点検口	32 折板裏	既存再使用する				[5. 1. 6]	
		・新設する				(2. 0. 2. 1. 4)	
		材種	※アルミニウム製	・ラウンP			
		形式	・片引き	・引分け			
		形状	・C形	・D形	・I形		
		既存再使用する	</				

位置図



仕上表

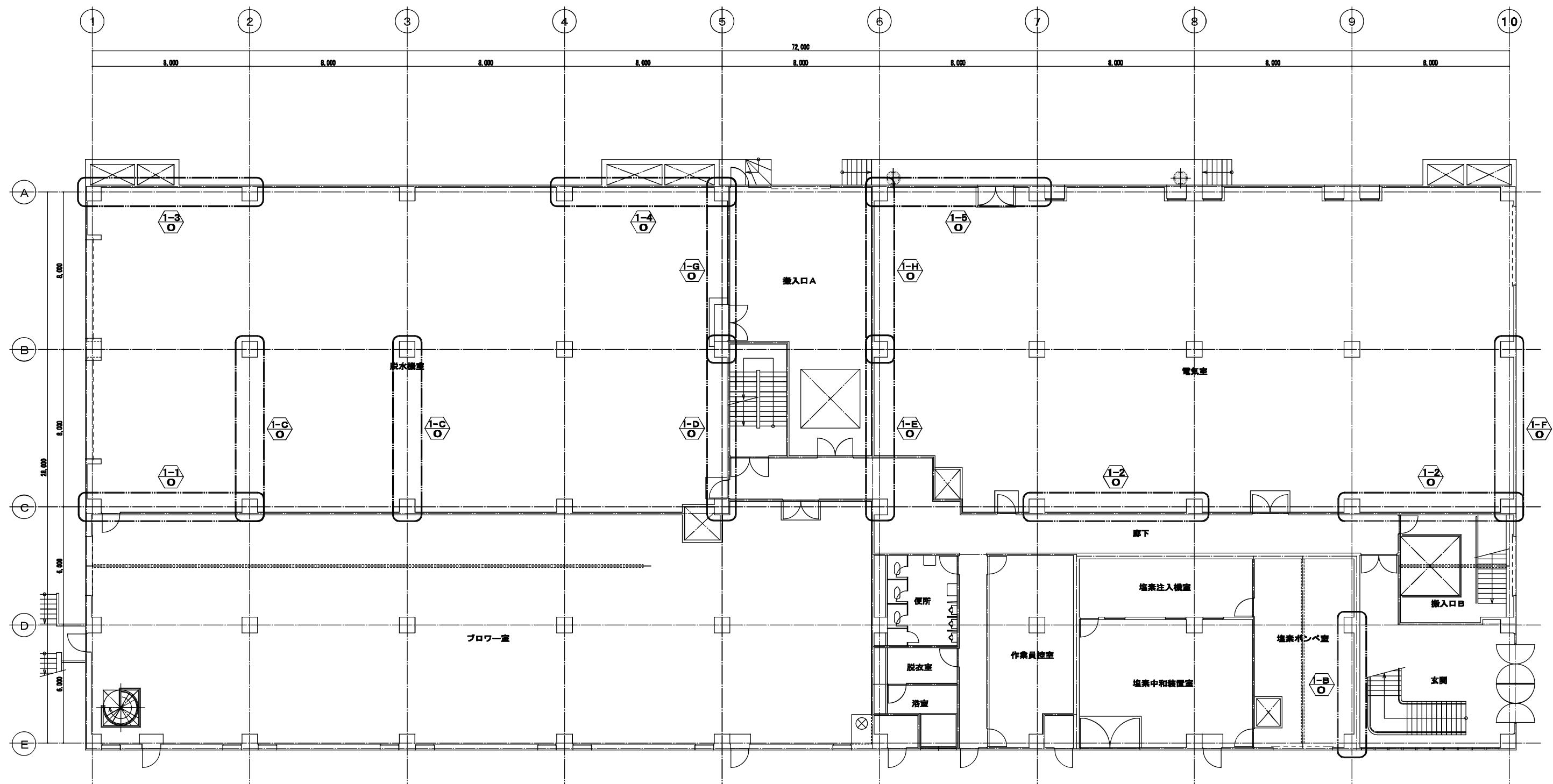
内部仕上表（上段一改修前 下段一改修後）

階	室名	床			幅木			腰壁			壁			天井			備考			
		下地	仕上	詳細番号	下地	仕上	高さ	詳細番号	下地	仕上	高さ	詳細番号	柱型仕上	下地	仕上	高さ	詳細番号	梁型仕上		
2階	消耗品保管庫	M t =30	ビニール床タイル	<1-01-2>	M t =25	プラスチック系巾木	100					プラスチック系巾木 t =10 寒冷紗貼り	内装薄塗材		壁に同じ	S	GB t =9.5 RB t =12	3000	<3-01-1>	E通り側天井 : H=4240 一部撤去
		M t =30	ビニール床タイル	<1-01-2>	M t =25	プラスチック系巾木	100					プラスチック系巾木 t =10 寒冷紗貼り	内装薄塗材		壁に同じ	S	GB t =9.5 RB t =12	3000	<3-01-1>	
場長室	軽量コンクリート t =100	モルタル塗り t =30 タイルカーベット敷き	<1-01-1>	M t =25	プラスチック系巾木	90						M t =25	木目クロス貼り		M t =25 木目クロス貼り	S	GB t =9.5 RB t =12	2700	<3-01-2>	
	無筋コンクリート t =100	モルタル塗り t =30 タイルカーベット敷き	<1-01-1>	M t =25	プラスチック系巾木	90						M t =25	木目クロス貼り		M t =25 木目クロス貼り	S	GB t =9.5 RB t =12	2700	<3-01-2>	
宿直室	W (H=100)	緑甲板張り部分一部撤去 蓋敷き	<1-02-*>									M t =25	内装薄塗材		M t =25 内装薄塗材	S	GB (W)	2400		押入れ（床：合板 t =5.5、壁：モルタル塗り t =30、天井：合板 t =3 中段付き）一部撤去 木製付鶴居、廻縁 一部撤去
	W	緑甲板張り部分一部撤去 蓋敷き	<1-02-*>									M t =25	内装薄塗材		M t =25 内装薄塗材	S	GB (W)	2400		
更衣室	軽量コンクリート t =150	モルタル塗り t =30 ビニール床タイル	<1-01-2>	C	木製（ラワン）	75	<2-11-3>					C	モルタル塗り t =25 VP塗り	<2-02-13>	壁に同じ	S	石綿セメント板 t =6 (底目貼り) EP塗り	2440	<3-01-1>	
	無筋コンクリート t =150	モルタル塗り t =30 ビニール床タイル	<1-01-2>	C	木製（ラワン）	75	<2-11-3>					C	モルタル塗り t =25 VP塗り	<2-02-13>	壁に同じ	S	ケイカル板 t =6 (底目貼り) EP塗り	2440	<3-01-1>	
水質試験室 生物細菌室	軽量コンクリート t =150	モルタル塗り t =30 床用塗料塗り	<1-01-1>	C	モルタル塗り t =25 床用塗料塗り	100	<2-11-7>					C	モルタル塗り t =25 VP塗り	<2-02-13>	壁に同じ	S	石綿セメント板 t =6 EP塗り	3500	<3-01-1>	E通り側天井 : H=4240 一部撤去
	無筋コンクリート t =150	モルタル塗り t =30 床用塗料塗り	<1-01-1>	C	モルタル塗り t =25 床用塗料塗り	100	<2-11-7>					C	モルタル塗り t =25 VP塗り	<2-02-13>	壁に同じ	S	ケイカル板 t =6 EP塗り	3500	<3-01-1>	
機器室	軽量コンクリート t =150	モルタル塗り t =30 ビニール床タイル	<1-01-2>	C	モルタル塗り t =25 VP塗り	100	<2-11-7>					C	モルタル塗り t =25 VP塗り	<2-02-13>	壁に同じ	S	石綿セメント板 t =6 EP塗り	3500	<3-01-1>	E通り側天井 : H=4240 一部撤去
	無筋コンクリート t =150	モルタル塗り t =30 ビニール床タイル	<1-01-2>	C	モルタル塗り t =25 VP塗り	100	<2-11-7>					C	モルタル塗り t =25 VP塗り	<2-02-13>	壁に同じ	S	ケイカル板 t =6 EP塗り	3500	<3-01-1>	
試験事務室	軽量コンクリート t =150	モルタル塗り t =30 ビニール床タイル	<1-01-2>	M t =25	プラスチック系巾木	100						C	モルタル塗り t =25 EP塗り	<2-02-13>	壁に同じ	S	GB t =9.5 RB t =12	3500	<3-01-1>	E通り側天井 : H=4240 一部撤去
	無筋コンクリート t =150	モルタル塗り t =30 ビニール床タイル	<1-01-2>	M t =25	プラスチック系巾木	100						C	モルタル塗り t =25 EP塗り	<2-02-13>	壁に同じ	S	GB t =9.5 RB t =12	3500		
廊下	M t =30 —部軽量コンクリート t =150	ビニール床タイル	<1-01-2>	M t =25	プラスチック系巾木	100						プラスチック系巾木 t =10 寒冷紗貼り	複層塗材		壁に同じ	S	GB t =9.5 RB t =12	2440	<3-01-1>	
	M t =30 —部無筋コンクリート t =150	ビニール床タイル	<1-01-2>	M t =25	プラスチック系巾木	100						プラスチック系巾木 t =10 寒冷紗貼り	複層塗材		壁に同じ	S	GB t =9.5 RB t =12	2440	<3-01-1>	
応接コーナー	M t =30	ビニール床タイル	<1-01-2>	C	テラゾブロック	100						M t =25	複層塗材		壁に同じ	S	GB t =9.5 経量吹付	4235		
	M t =30	ビニール床タイル	<1-01-2>	C	テラゾブロック	100						M t =25	複層塗材		壁に同じ	S	GB t =9.5 経量吹付	4235		
中央操作室	ボーダー部 軽量コンクリート t =270 M t =30	フリーアクセスフロアー ^一 ボーダー部 ビニール床タイル	<1-01-2>	M t =25	プラスチック系巾木	100						プラスチック系巾木 t =10 寒冷紗貼り	複層塗材		壁に同じ	S	GB t =9.5 RB t =12	3000	<3-01-1>	
	ボーダー部 軽量コンクリート t =270 M t =30	フリーアクセスフロアー ^二 ボーダー部 帶電防止ビニール床タイル	<1-01-2>	M t =25	プラスチック系巾木	100						プラスチック系巾木 t =10 寒冷紗貼り	複層塗材		壁に同じ	S	GB t =9.5 RB t =12	3000	<3-01-1>	
3階	軽量コンクリート t =平均250	モルタル塗り t =30 床用塗料塗り	<1-01-1>	C	モルタル塗り t =25 床用塗料塗り	100	<2-11-7>	C	モルタル塗り t =25 F L+1500	<2-02-13>	C	コンクリート打放し	<2-02-8>	壁に同じ	C	コンクリート打放し	直天	<3-01-11>	天井に同じ	
	軽量コンクリート t =平均250	モルタル塗り t =30 床用塗料塗り	<1-01-1>	C	モルタル塗り t =25 床用塗料塗り	100	<2-11-7>	C	モルタル塗り t =25 F L+1500	<2-02-13>	C	コンクリート打放し	<2-02-8>	壁に同じ	C	コンクリート打放し	直天	<3-01-11>	天井に同じ	
消石灰溶融槽室	軽量コンクリート t =平均250	モルタル塗り t =30						C	モルタル塗り t =25 F L+1500	<2-02-13>	C	コンクリート打放し	<2-02-8>	壁に同じ	C	コンクリート打放し	直天	<3-01-11>	天井に同じ	
	軽量コンクリート t =平均250	モルタル塗り t =30						C	モルタル塗り t =25 F L+1500	<2-02-13>	C	コンクリート打放し	<2-02-8>	壁に同じ	C	コンクリート打放し	直天	<3-01-11>	天井に同じ	

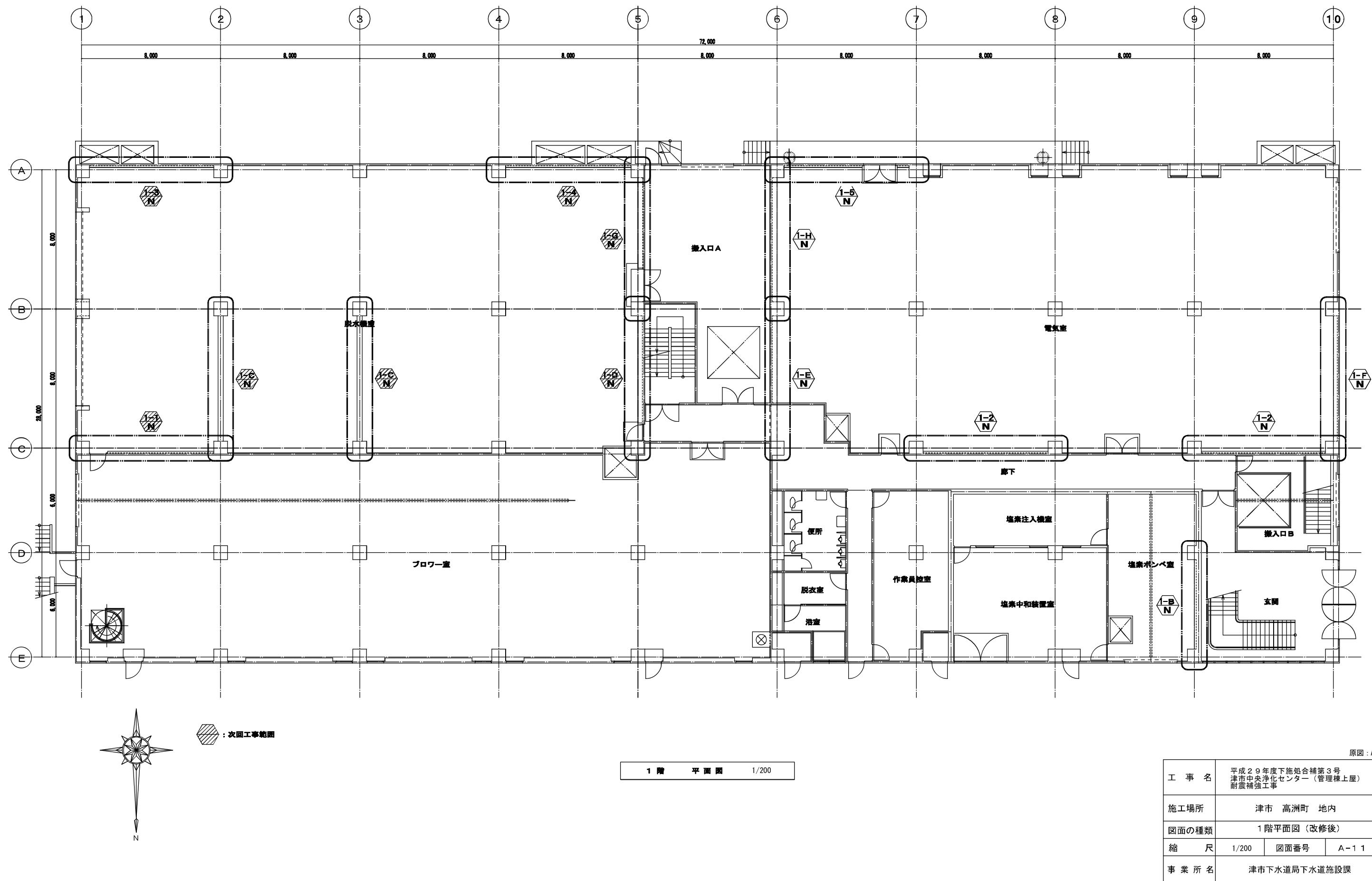
原図 : A3

仕 上 材 料 の 厚 さ	工事名 平成29年度下施処合補第3号 津市中央浄化センター（管理棟上屋）耐震補強工事																アスベストの含有のおそれのある建材（分析調査要）			
	材 料 名	種 别	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	材 料 名	種 别	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	(C) : 土木工事	(A M) : 建築機械設備工事	(A E) : 建築電気設備工事	(P M) : プラント機械設備工事	(P E) : プラント電気設備工事	アスベストの含有のおそれのある建材（分析調査要）	施工場所	図面の種類	縮 尺	事 業 所 名
	せっこうボード	仕 上	12. 5	12. 5	MN-8 6 1 9	けい酸カルシウム板（タイプ2）		12	10	NM-8 5 7 8						・軽量吹付、石綿セメント板、けい酸カルシウム板、	津市 高洲町 地内	仕上表 (2)	——	津市下水道局下水道施設課
	せっこうボード	下 地	9. 5	9. 5	QM-9 8 2 8	押出法ポリスチレンフォーム保溫材														

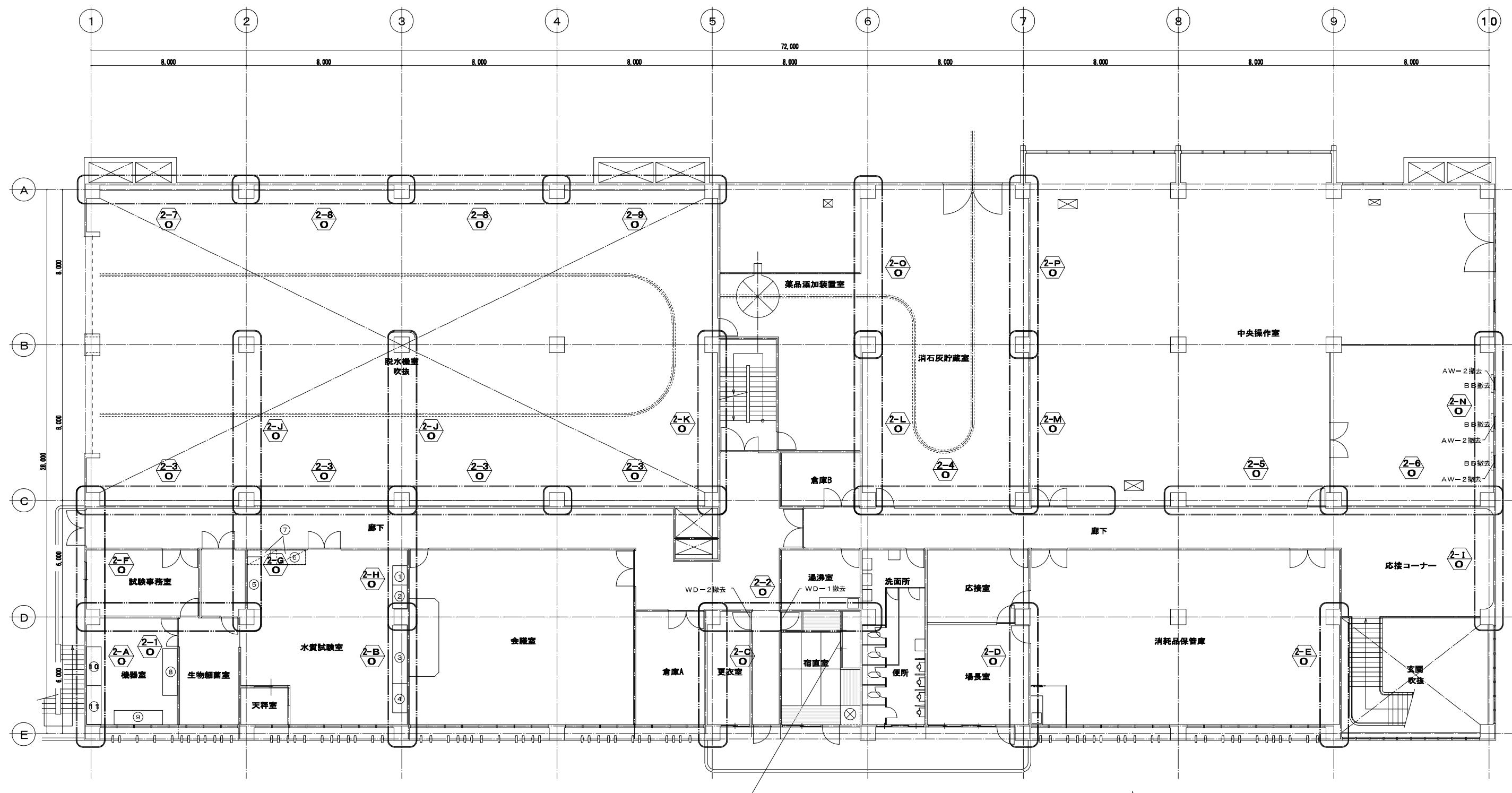
改修前



改修後



改修前



移動機器リスト

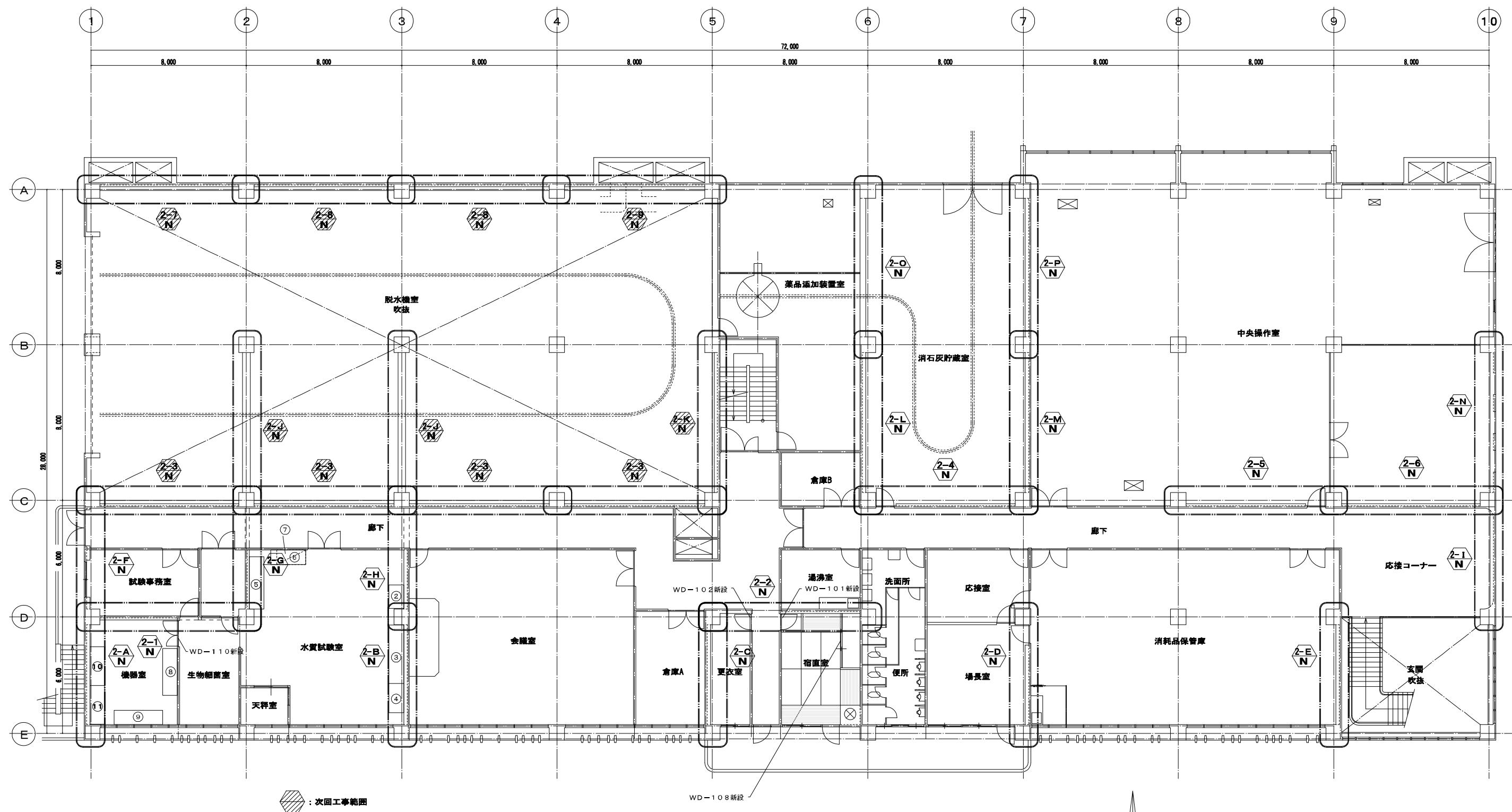
室名	番号	寸法	撤去、移動の別	室名	番号	寸法	撤去、移動の別
水質試験室	①	1000×750×H500	床流し台 撤去	水質試験室	⑦	1500×750×H750×2台	扉戸櫻 左側面撤去
水質試験室	②	1200×750×H800	流し台 移動	機器室	⑧	2400×750×H850	実験台 そのまま
水質試験室	③	3000×750×H850	実験台 移動	機器室	⑨	2500×750×H850	実験台 そのまま
水質試験室	④	1500×750×H800	流し台 移動	機器室	⑩	2000×750×H850	実験台 移動
水質試験室	⑤	2700×750×H850	実験台 移動	機器室	⑪	2000×750×H850	実験台 移動
水質試験室	⑥	1800×750×H850	実験台 そのまま				

2階平面図 1/200

原図:A3

工事名	平成29年度下施処合補第3号 津市中央浄化センター(管理棟上屋) 耐震補強工事		
施工場所	津市 高洲町 地内		
図面の種類	2階平面図(改修前)		
縮尺	1/200	図面番号	A-12
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

改修後

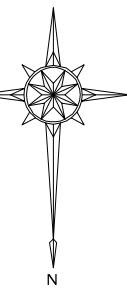


移動機器リスト

室名	番号	寸法	撤去、移動の別	室名	番号	寸法	撤去、移動の別
水質試験室	②	1200×750×H800	流し台 再設置	機器室	⑧	2400×750×H850	実験台 隅設のまま
水質試験室	③	3000×750×H850	実験台 再設置	機器室	⑨	2500×750×H850	実験台 隅設のまま
水質試験室	④	1500×750×H800	流し台 再設置	機器室	⑩	2000×750×H850	実験台 再設置
水質試験室	⑤	2700×750×H850	実験台 再設置	機器室	⑪	2000×750×H850	実験台 再設置
水質試験室	⑥	1800×750×H850	実験台 再設置				
水質試験室	⑦	1500×750×H750×1台	吊戸棚 隅設のまま				

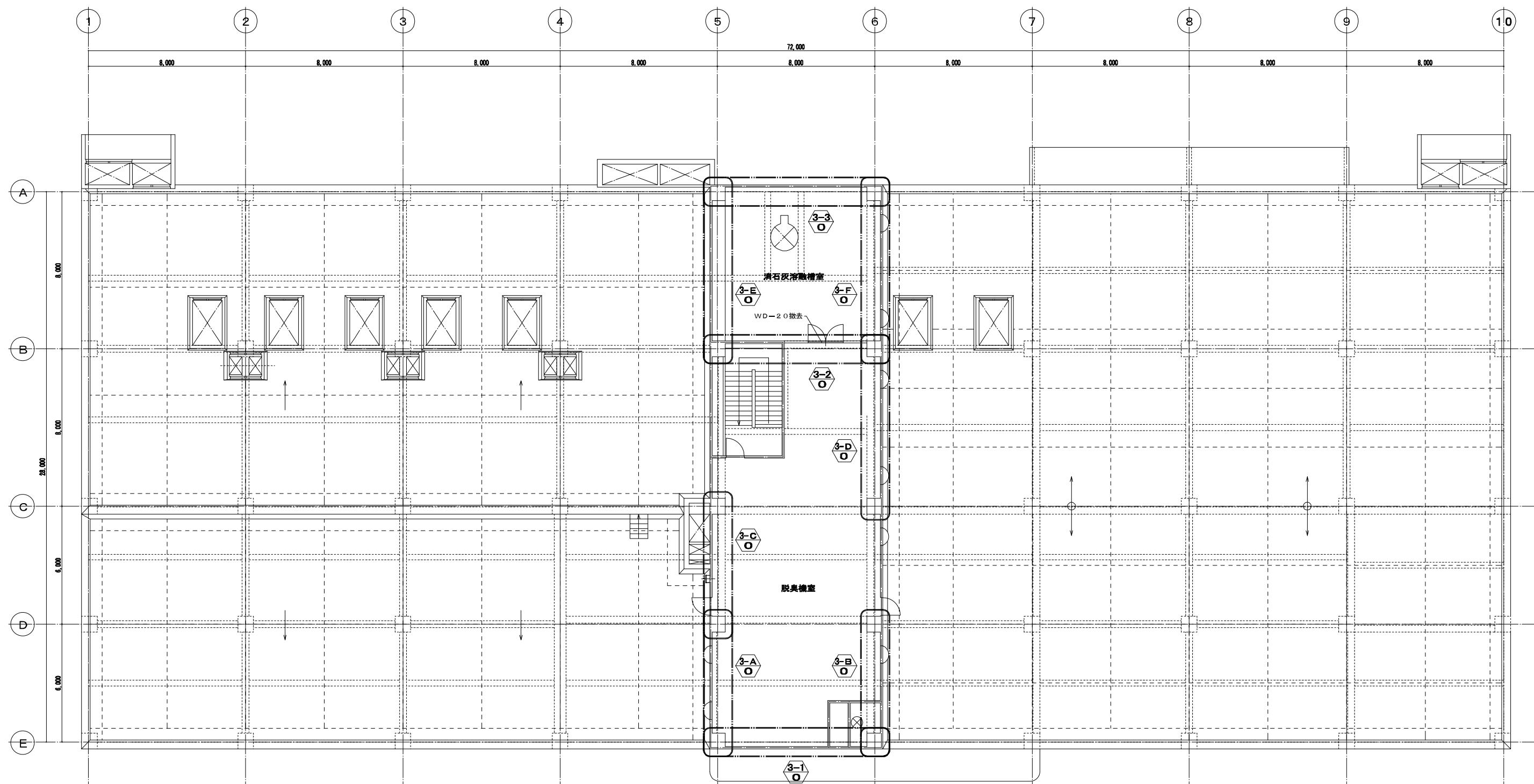
2階平面図 1/200

原図:A3



工事名	平成29年度下施処合補第3号 津市中央浄化センター(管理棟上屋) 耐震補強工事		
施工場所	津市 高洲町 地内		
図面の種類	2階平面図(改修後)		
縮尺	1/200	図面番号	A-13
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

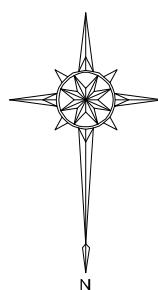
改修前



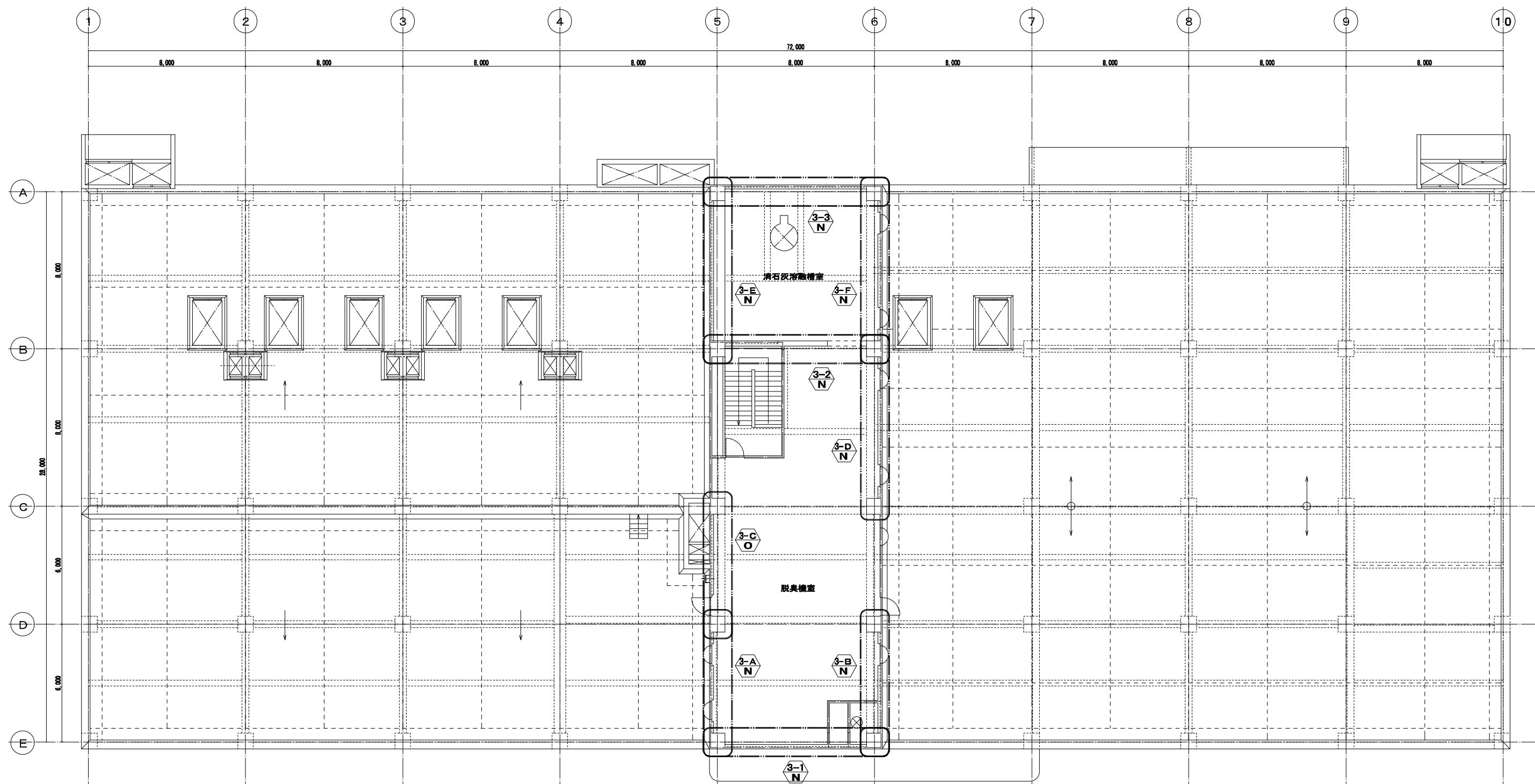
3階平面図 1/200

原図:A3

工事名	平成29年度下施処合補第3号 津市中央浄化センター(管理棟上屋) 耐震補強工事		
施工場所	津市 高洲町 地内		
図面の種類	3階平面図(改修前)		
縮尺	1/200	図面番号	A-14
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



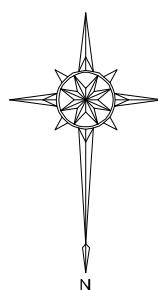
改修後



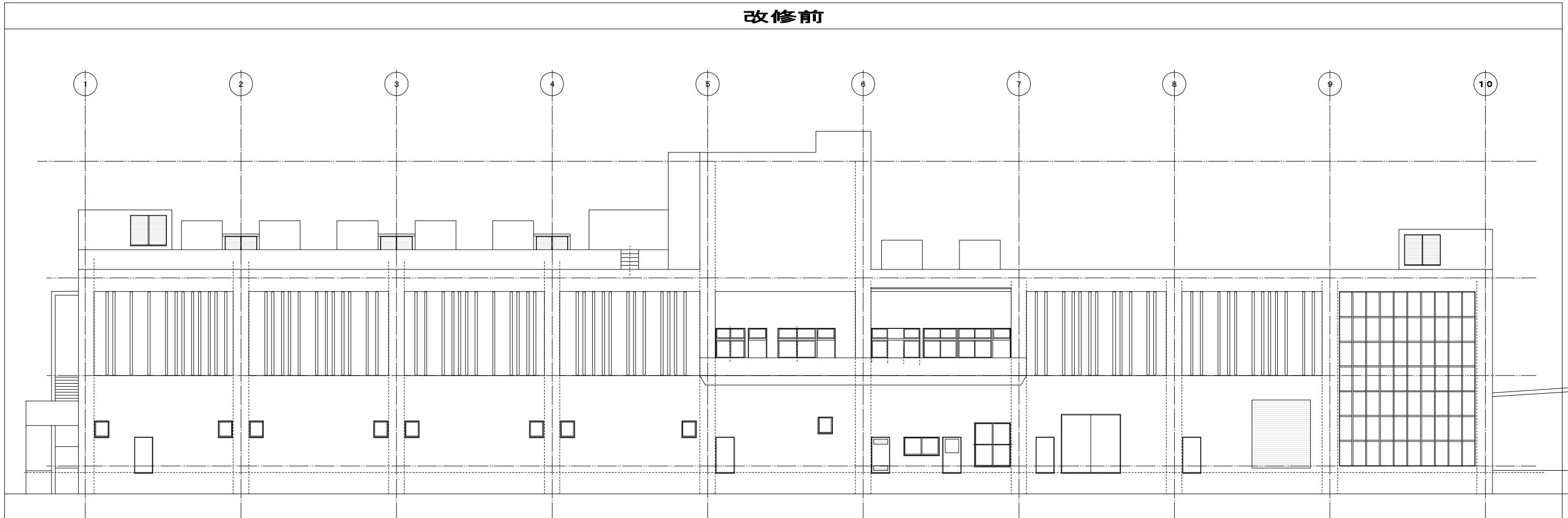
3階 平面図 1/200

原図:A3

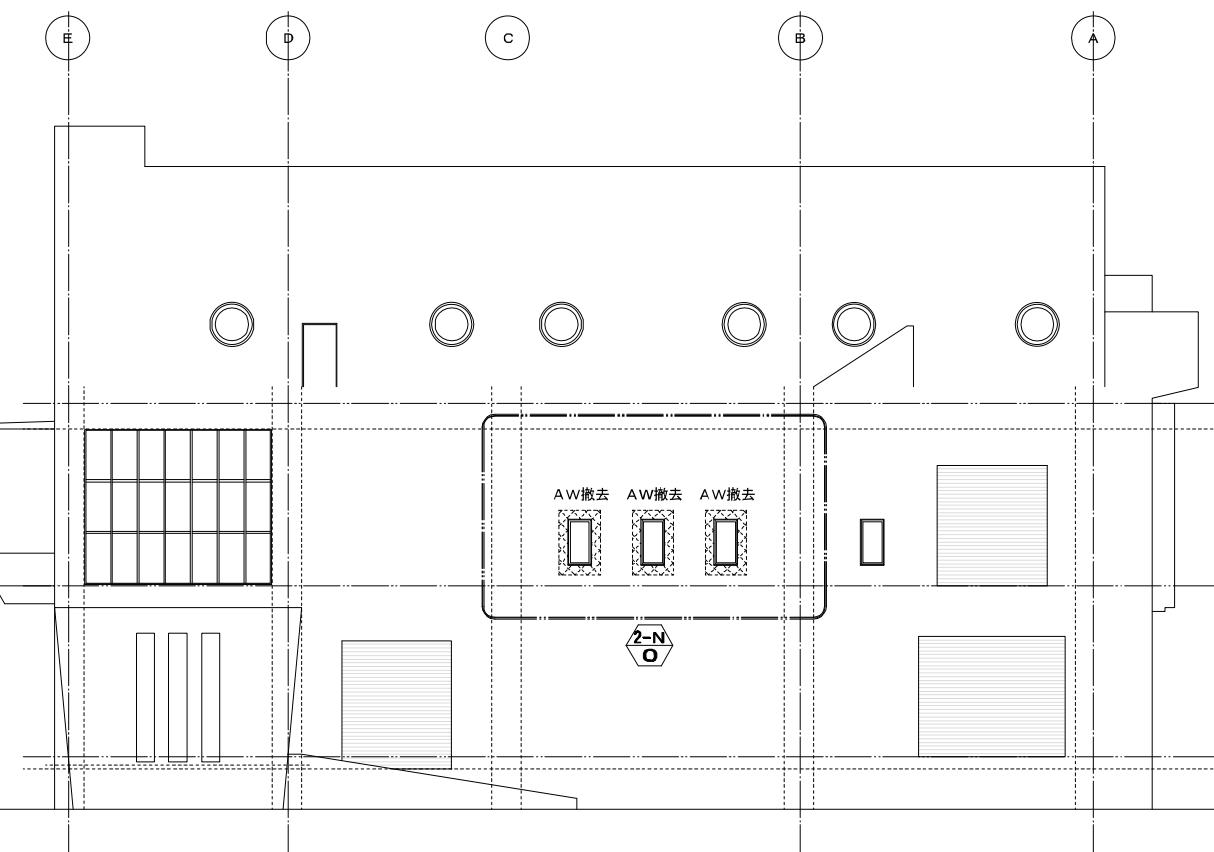
工事名	平成29年度下施処合補第3号 津市中央浄化センター(管理棟上屋) 耐震補強工事		
施工場所	津市 高洲町 地内		
図面の種類	3階平面図(改修後)		
縮尺	1/200	図面番号	A-15
事業所名	津市下水道局下水道施設課		



改修前



北面立面図 1/200



凡例 は耐震補強箇所の部分詳細図を示す。

は外壁補強箇所を示す。

は内壁補強箇所を示す。

は柱・梁の位置を示す。

原図 : A3

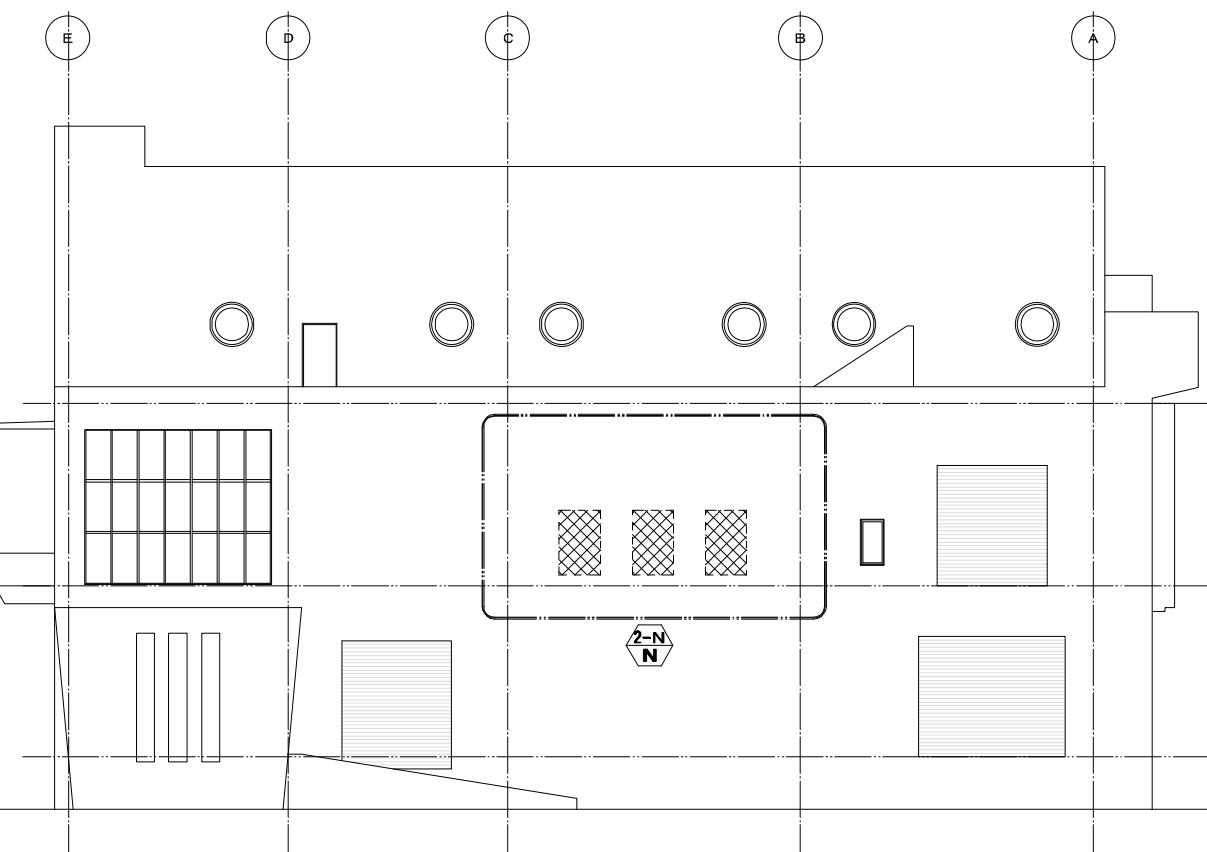
工事名	平成29年度下施処合補第3号 津市中央浄化センター（管理棟上屋） 耐震補強工事		
施工場所	津市 高洲町 地内		
図面の種類	北、西側立面図（改修前）		
縮尺	1/200	図面番号	A-16
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

西面立面図 1/200

改修後



北面立面図 1/200



凡例

※Nは耐震補強箇所の部分詳細図を示す。

□□□は外壁新設箇所を示す。

△△△は上部改築箇所を示す。

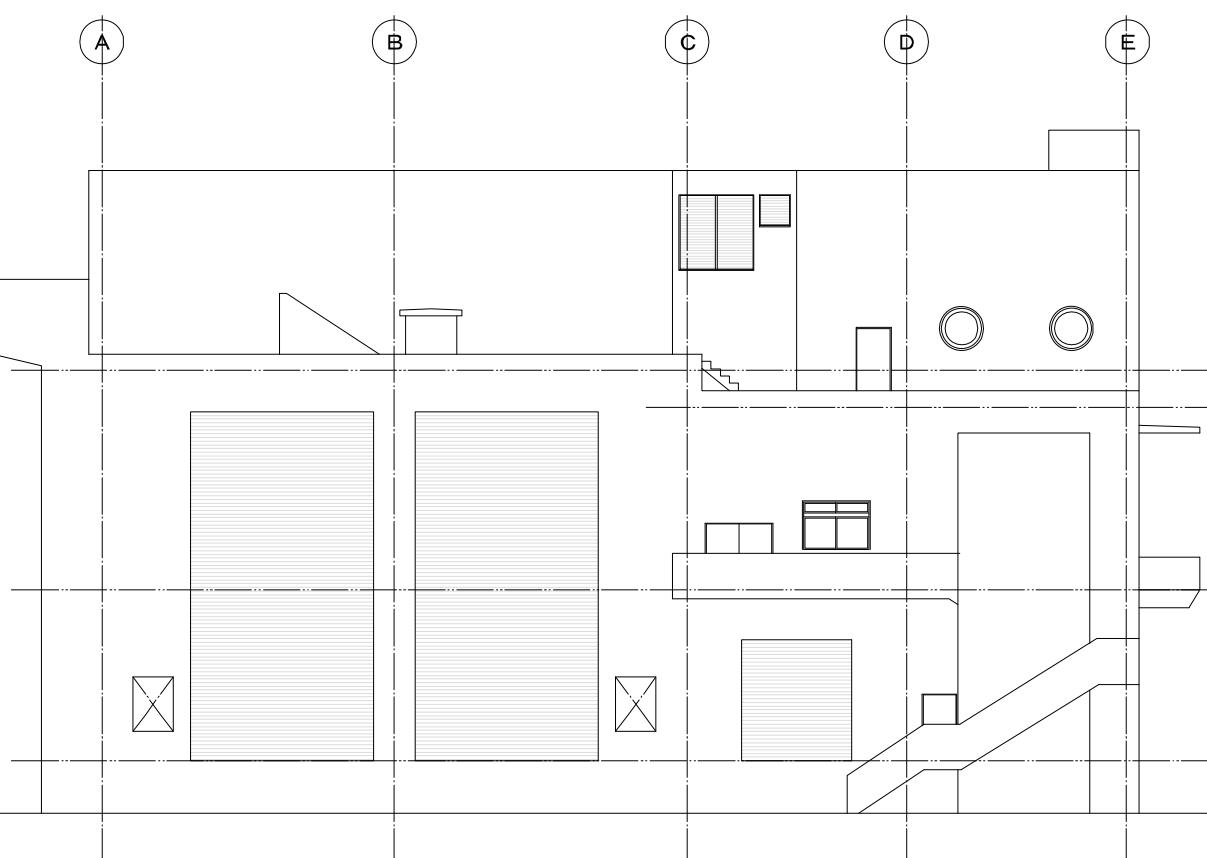
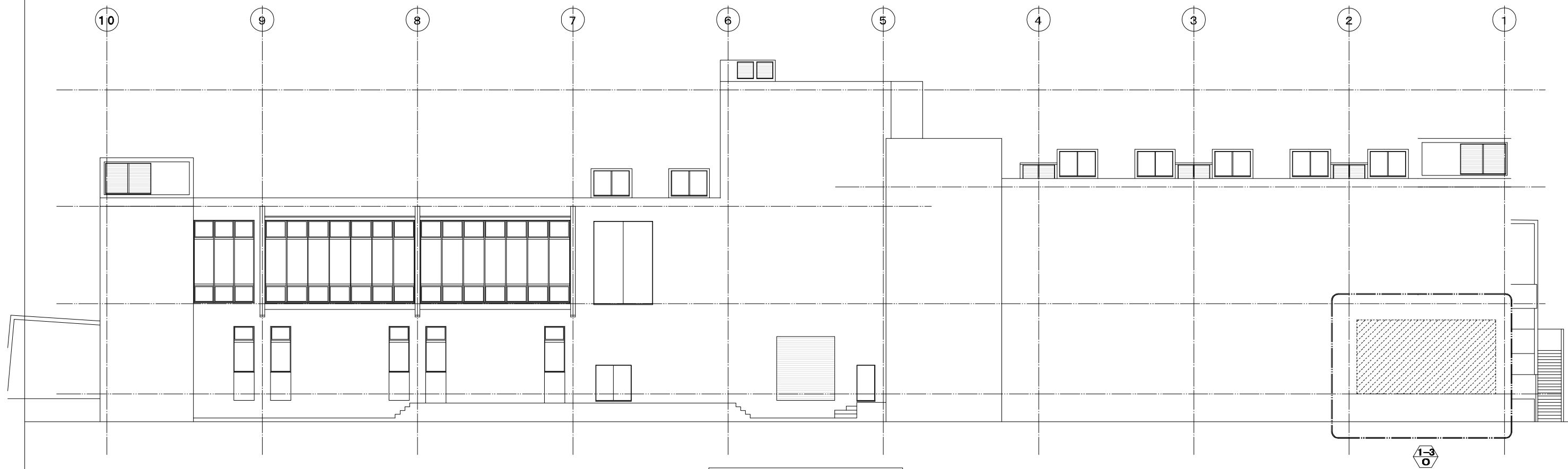
---シーリング (M8-2 10×10) 施設を示す。

原図:A3

工事名	平成29年度下施処合補第3号 津市中央浄化センター(管理棟上屋) 耐震補強工事		
施工場所	津市 高洲町 地内		
図面の種類	北、西側立面図(改修後)		
縮尺	1/200	図面番号	A-17
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

西面立面図 1/200

改修前



凡例

○は耐震補強箇所の部分詳細図を示す。

□は荷重伝達部面図を示す。

▨は軽量部材面図を示す。

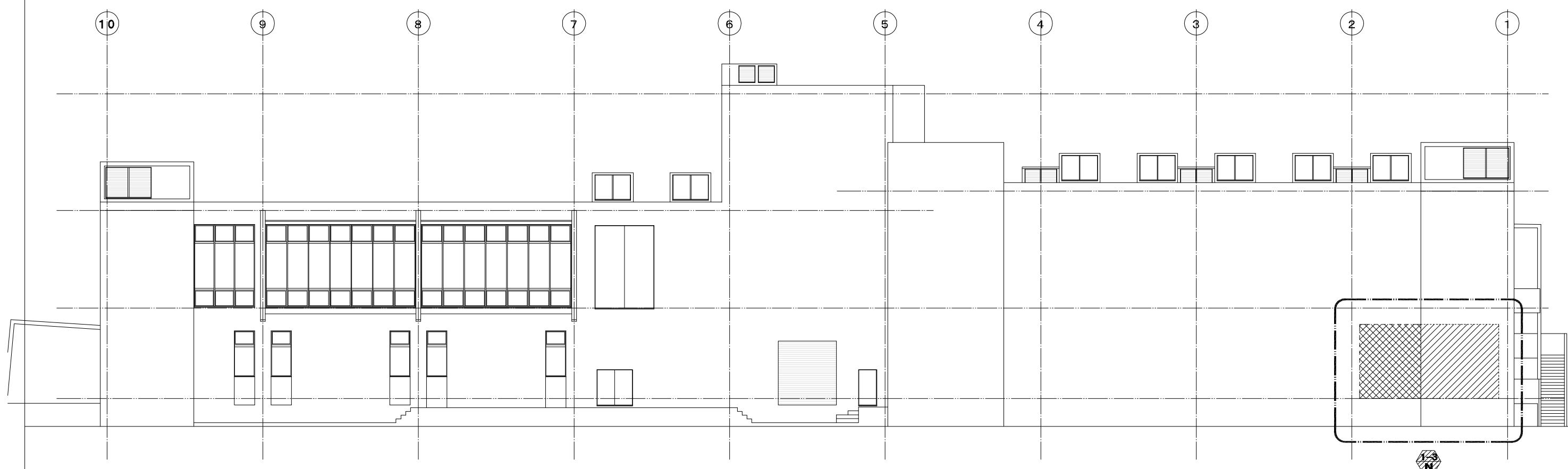
-----はスチールフレームを示す。

東面 立面図 1/200

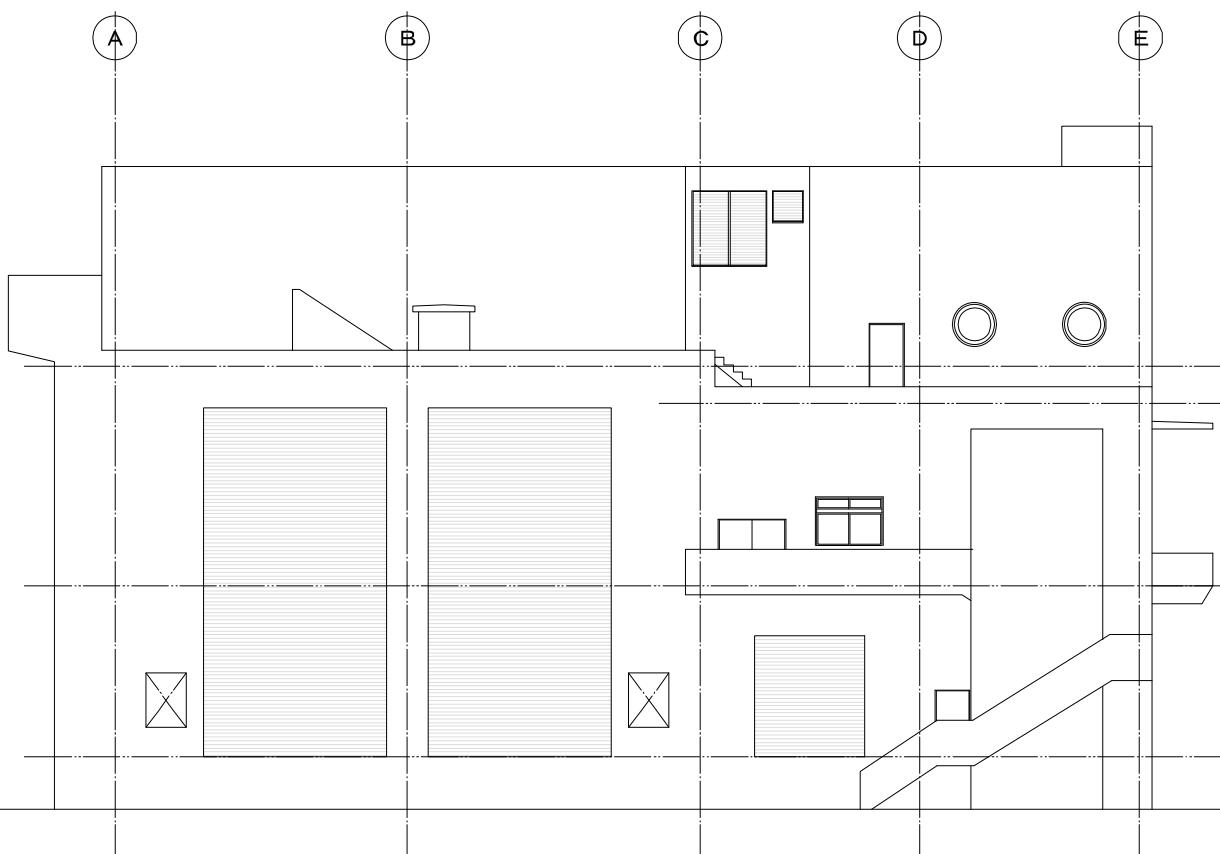
原図:A3

工事名	平成29年度下施処合補第3号 津市中央浄化センター(管理棟上屋) 耐震補強工事		
施工場所	津市 高洲町 地内		
図面の種類	南、東側立面図(改修前)		
縮尺	1/200	図面番号	A-18
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

改修後



南面 立面図 1/200



凡例



※Nは耐震補強箇所の部分詳細図を示す。

※斜線部は次回工事範囲とする。

□は上部断面図を示す。

△は上部放大型図を示す。

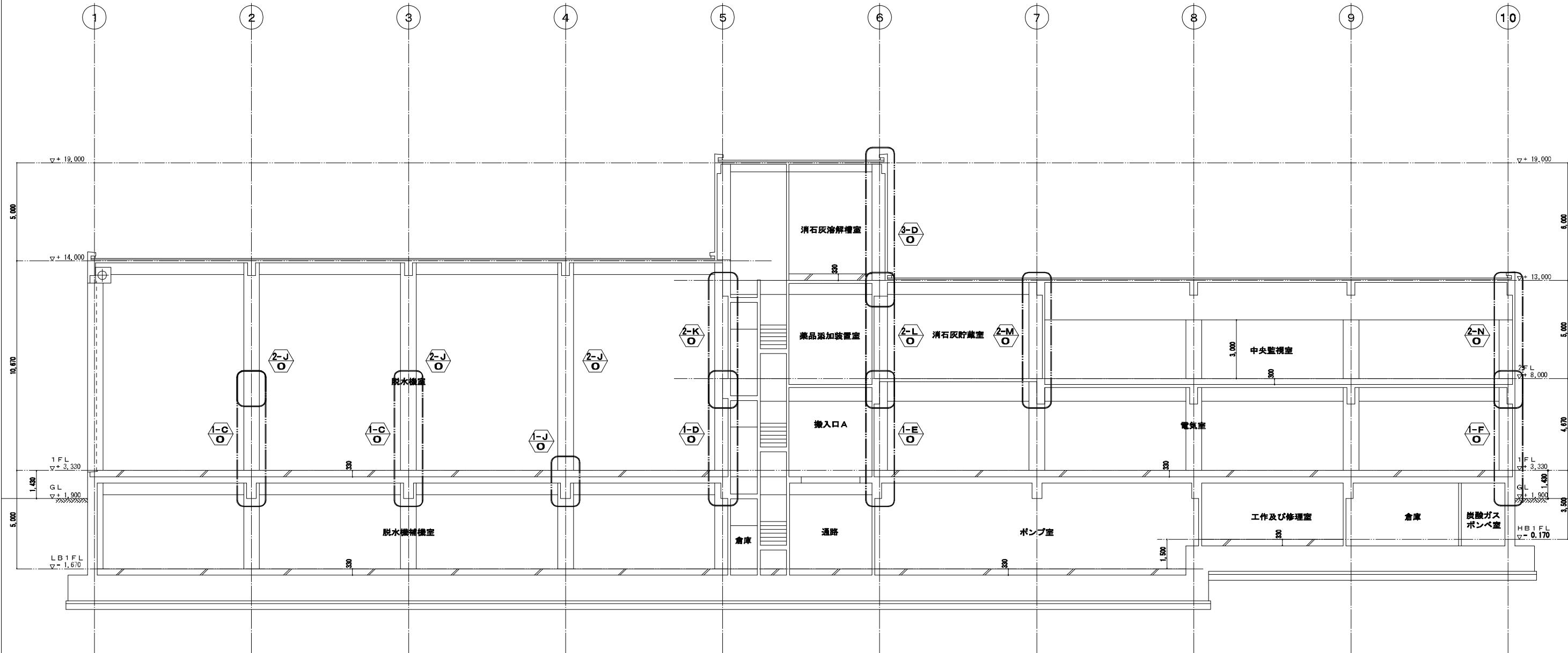
---シーリング (M8-2 10×10) 断面を示す。

東面 立面図 1/200

原図:A3

工事名	平成29年度下施処合補第3号 津市中央浄化センター（管理棟上屋） 耐震補強工事		
施工場所	津市 高洲町 地内		
図面の種類	南、東側立面図（改修後）		
縮尺	1/200	図面番号	A-19
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

改修前

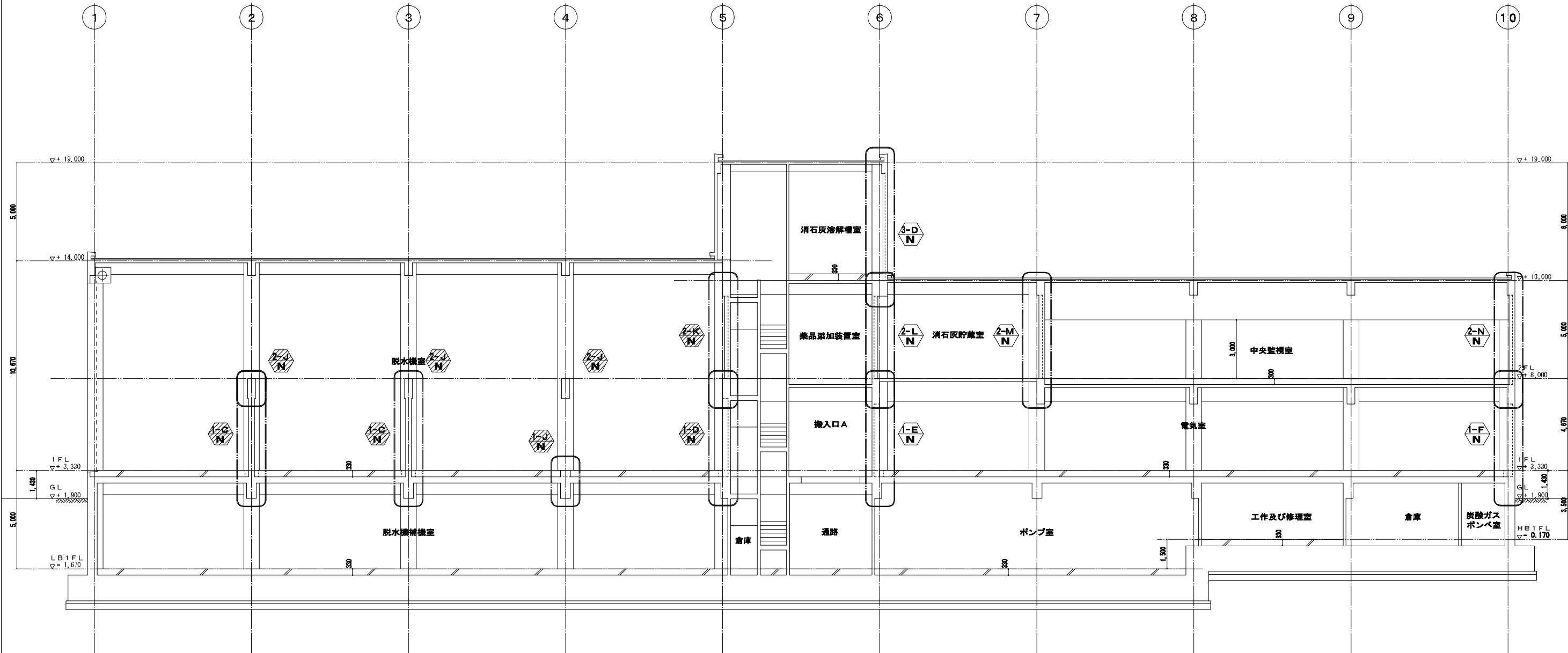


図面番号 1/200

原図 : A3

工事名	平成29年度下施処合補第3号 津市中央浄化センター(管理棟上屋) 耐震補強工事		
施工場所	津市 高洲町 地内		
図面の種類	断面図(1) (改修前)		
縮尺	1/200	図面番号	A-20
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

改修後

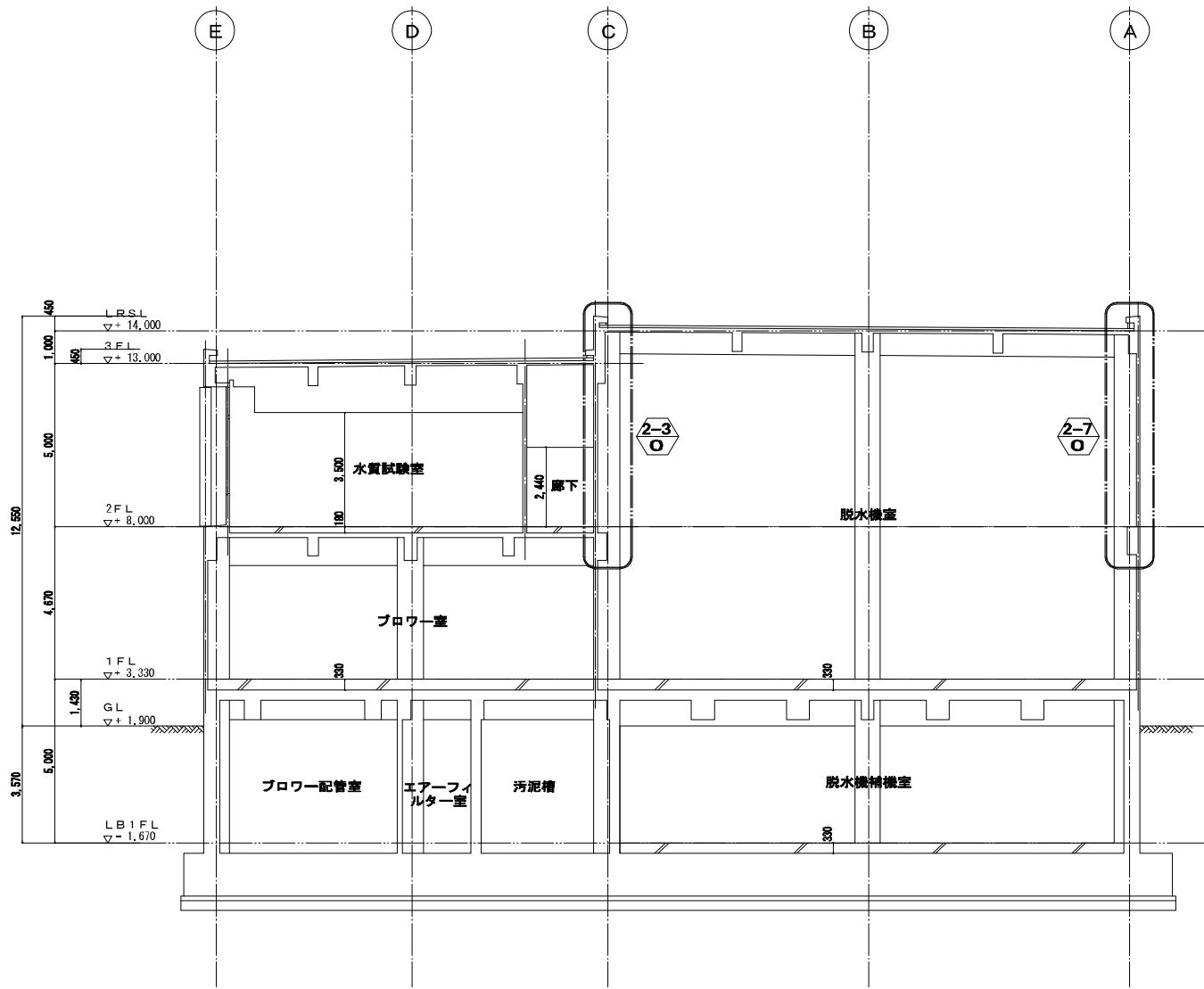


□—□間 断面図 1/200

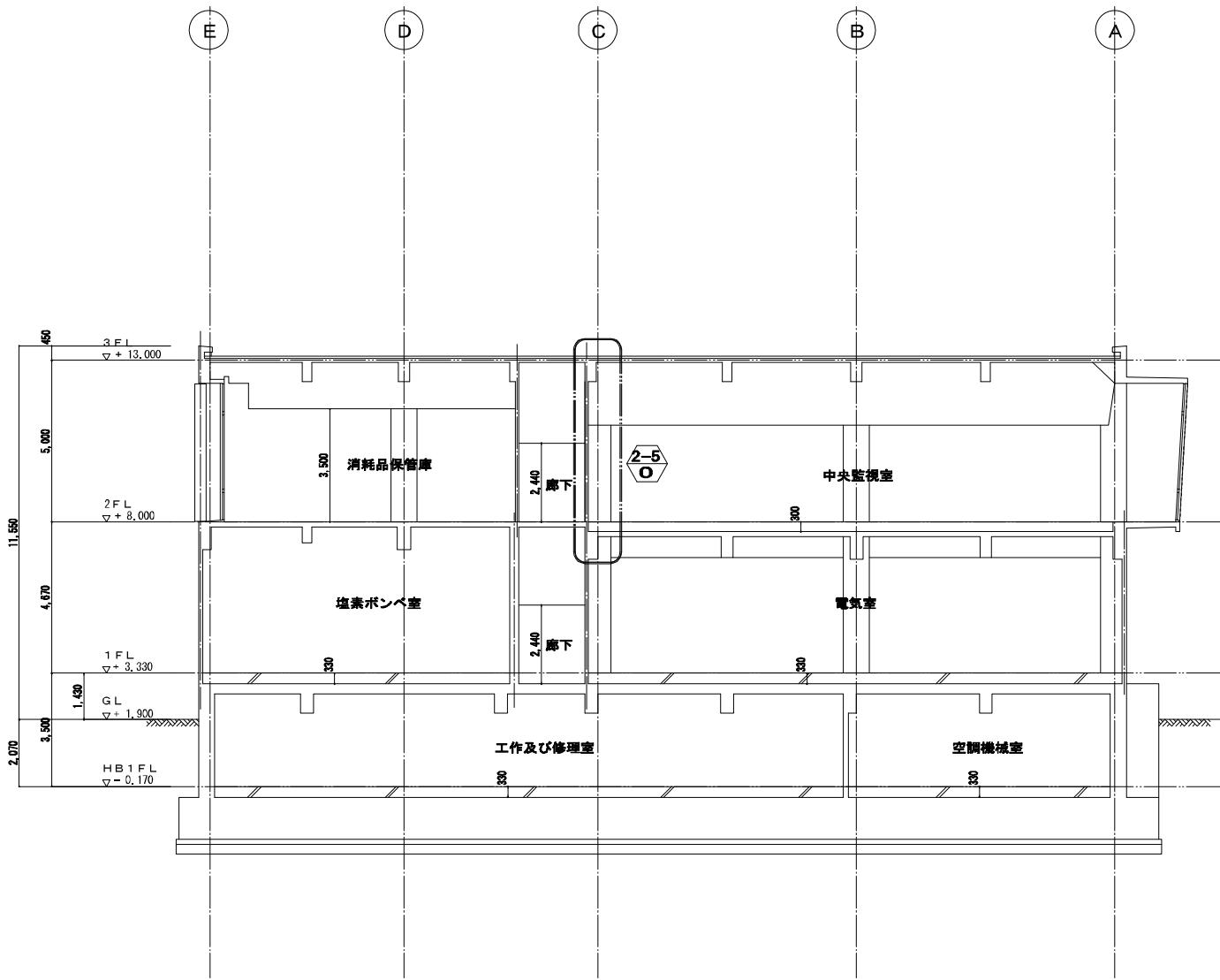
原図 : A3

工事名	平成29年度下施処合補第3号 津市中央浄化センター(管理棟上屋) 耐震補強工事		
施工場所	津市 高洲町 地内		
図面の種類	断面図(1) (改修後)		
縮尺	1/200	図面番号	A-21
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

改修前



②-③ 間 斷面図 1/200

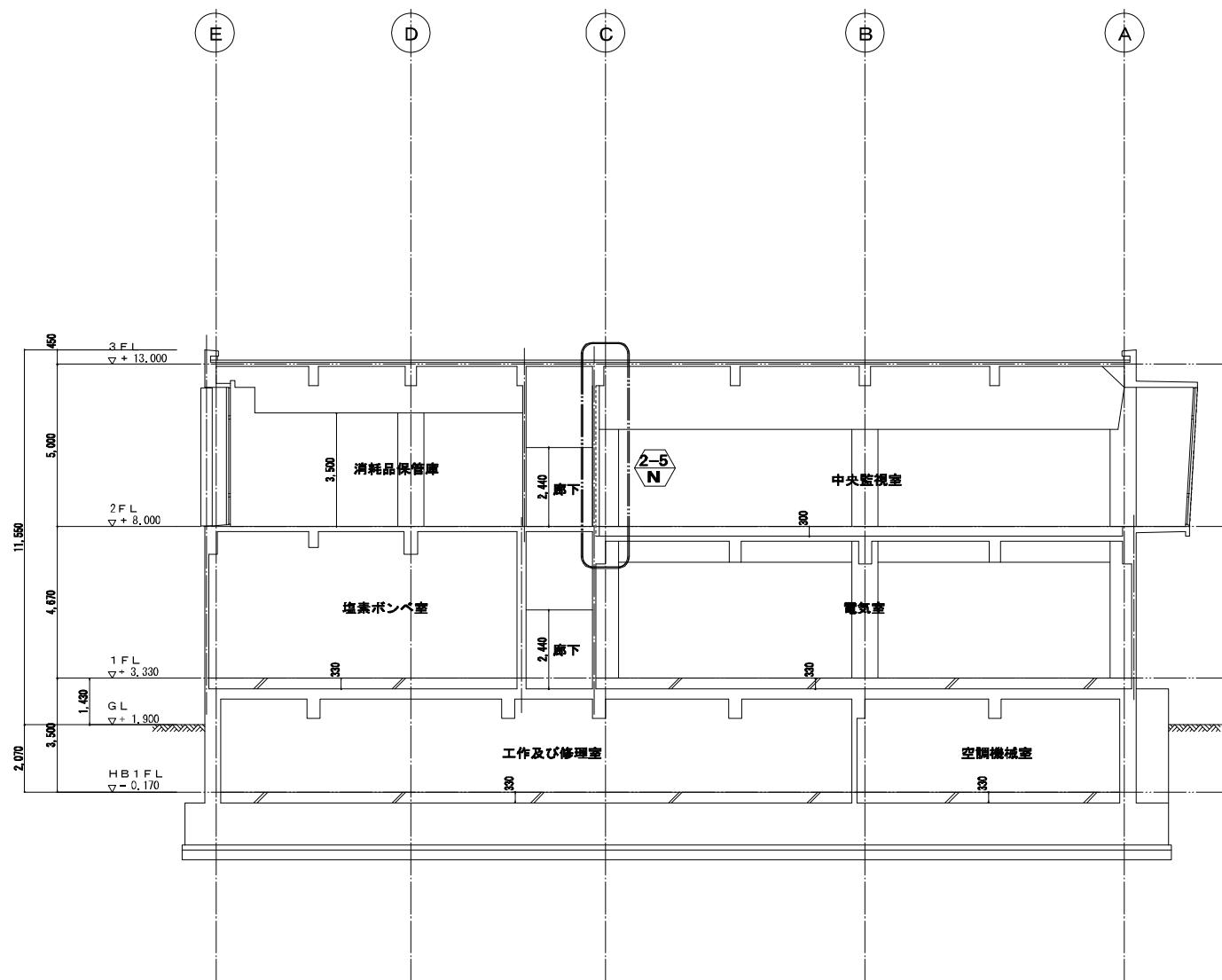
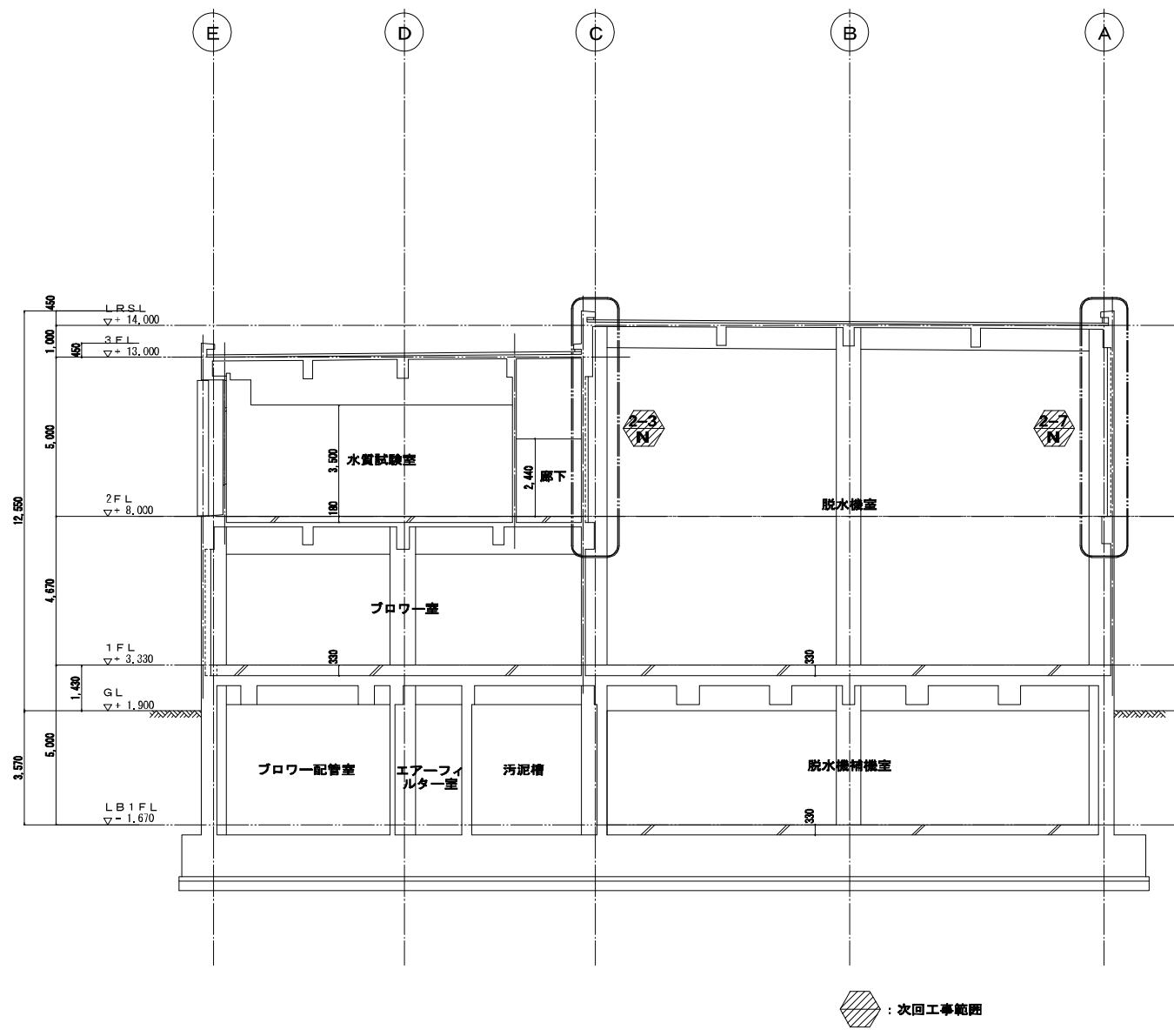


⑧-⑨ 間 断面図 1/200

原図 : A3

工事名	平成29年度下施処補第3号 津市中央浄化センター（管理棟上屋） 耐震補強工事		
施工場所	津市 高洲町 地内		
図面の種類	断面図(2) (改修前)		
縮尺	1/200	図面番号	A-22
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

改修後



原図 : A3

工事名	平成29年度下施処合補第3号 津市中央浄化センター（管理棟上屋） 耐震補強工事		
施工場所	津市 高洲町 地内		
図面の種類	断面図(2) (改修後)		
縮尺	1/200	図面番号	A-23
事業所名	津市下水道局下水道施設課		

